

極秘

1175

一九三三年五月二十日

日支紛争ニ關スル國際聯盟ノ裁決

國際聯盟規約第十五條第四項ニ依ル國際聯盟總會
報告書（一九三三年二月二十四日採擇）

支那南京外交部情報局發行

朝鮮總督官房外事課編

朝鮮總督府

627 C 0628

1175

緒言

一九三三年三月十一日國際聯盟總會ハ兩當事國ノ承諾ヲ得テ日支紛争
解決ノ爲特別委員會即チ十九ヶ國委員會ナルモノヲ設置シタ、右委員
會ハ總會ノ議長ヲ以テ其委員長トナシ當事國及スキツツル、チエコス
ロバキヤ、コロンビヤ、ホルトガル、ハンガリーヲ除ク常任理事國代
表ヲ以テ組織サレタ

委員會ハ日本ノ頑強ナル反對ヲ受ケツツ事件解決ニ最大ノ努力ヲ致シ
三月十一日ノ決議第五節第三項ノ趣旨ニ基キ次ノ報告書ヲ起草シタ
本報告書ハ一九三一年九月十八日ヨリ一九三三年二月十四日ニ至ル迄
ノ日支紛争事件ニ關スル全部ノ調査事項ヲ包含シ日支紛争調査委員ガ
提出シタ報告書ノ結論ヲ承認シ紛争中日本政府ガ執ツタ行動及其ノ態

朝鮮總督府

628 0629

目次

- 第一章 概観ニ於ケル諸事件
調査委員曾報告書最初ノ八章採擇。報告書ノ梗概。
- 第二章 國際聯盟ニ於ケル紛争ノ經過
- 第三章 紛争ノ主タル原因
- 第四章 勸告ノ記述

朝鮮總督府

630 - 0631

度ヲ非認シタルデアル支那ハ右報告書ヲ承認シ又一九三三年二月二十四日國際聯盟ハ萬場一致ヲ以テ之ヲ採擇シタルデアル
外交部情報局長

朝鮮總督府

629 (0630

第一章 極東ニ於ケル諸事件——調査委員會報告書
 最初ノ八章ノ採擇

報告書ノ梗概

總會ハ日支間ノ紛争ノ根本的原因ガ著シク複雑シ居ルコトヲ認メル、
 理事會ガ現地事態ノ調査ニ派遣シタ調査委員會ハ「本紛争ニ包含セラ
 ルル諸問題ハ普通稱ラレ居ルガ如キ簡單ナルモノニ非ズ反ツテ極度ニ
 複雑シテ居リ一切ノ事實ニ關シ又其ノ歴史的背景ヲ周知スル者ノミガ
 之ニ對シ確定的ノ意見ヲ表示スル資格ヲ有スルト云フ事ガ出來ヨウ」
 トノ見解ヲ發表シテ居ル

調査委員會報告書ノ最初ノ八章ニ滿洲ニ於ケル諸事件ニ關スル紛争及
 主要事實ノ歴史的背景ヲ好ク均衡ヲ保テ且ツ公平ニ詳細ニ敘述シテ居

632 (0633

朝鮮總督府

國際聯盟規約第十五條第四項ニ依ル日支紛争ニ關スル
 國際聯盟總會報告書

總會ハ規約第十五條第三項ニヨル努力空シク終リ同條第九項ニヨ
 リ紛争ヲ審議スベク提案サレタノテ同條第四項ニ基キ紛争ノ諸事
 實ノ報告及右紛争ニ關スル正當且適當ナル報告ヲ採擇ス

631 (0632

朝鮮總督府

ル、總會ハ別ニ發表セラレテ居ル調査委員會ノ報告書ヲ略述シ又ハ約
 説スル事ハ不必トコトト思考スルモノデアアル
 總會ハ日支兩國政府カ通牒シタ意見書ヲ審査シタ後調査委員會報告書
 ノ最初ノ八章ヲ總會自体ノ報告書ノ一部トシテ採擇スル
 然シ紛争ノ種々ナル局面ニ關シテハ理事會及總會ガ執ツタ措置竝ニ委
 員會報告書中ニ示サレテ居ナイ事件特ニ一九三二年初上海ニ於テ發生
 シタ敵對行爲ノ原因ニ關スル事情ヲ敘述シテ本記述ヲ完全ナラシムル
 コトガ肝要デアアル右ノ事件ニ關シテハ總會ハ領事團調査委員會ヨリ提
 出セラレタ諸報告ヲ總會自體ノ報告書ノ一部トシテ採擇スル右兩報告
 書ハ別箇ニ公表セラレテ居ル調査團報告書ハ一九三二年九月初ヲ以テ
 欄筆セラレテ居ルカラ其ノ後滿洲ニ於テ發生シタ諸事件ニ關シテモ敘
 述スル必要ガアル。

紛争ノ進展ニ關スル簡單ナ歴史の概説ハ本報告書ノ第二部ニ掲ゲラレ
 ナアルガ之ハ調査委員會報告書ニ掲ゲラレテアル諸事件ノ敘述ト相關
 聯シテ閱讀セララルベキモノデアアル
 第三部ハ紛争ノ主タル原因並ニ總會ガ事實ヲ基礎トシテ推測シタ結論
 ヲ記述シテ居ルデアアル
 第四部ハ總會ガ紛争ニ關スル公正且適當ト認ムル勸告ヲ記載シテ居ル
 第二章 國際聯盟ニ於ケル紛争ノ經過
 一、紛争進展ノ概説
 紛争カ聯盟ニ付附託セラレテ以來既ニ長期間ヲ經過シタノデアアルガ
 此ノ間理事會及總會ガ決定シタル事ハ總ナ極東ニ於ケル紛争ノ進展
 ニ伴ヒ爲サレタモノデアアル。
 最初ニ紛争ガ第十一條ノ規定ニヨリ支那ヨリ理事會ニ附託セラレタ

際理事會ノ解決ヲ要請セラレタ事件ハ奉天其ノ他滿洲ノ各所デ發生
 シタ事件デアリ理事會ハ日本ヨリ日本ガ滿洲ニ於テ領土の企圖ヲ有
 シ居ラザル事並ニ日本ハ日本國民ノ生命及財産ノ安全保證ヲ條件ト
 シテ其ノ軍隊ヲ南滿洲鐵道附屬地内ニ撤退スベキ旨ヲ繰返シ宣言シ
 タノデアアル即チ之ガ九月三十日ノ決議及十月二十四日ノ決議ノ趣旨
 デアツタ、後者ハ日本ヲ除ク一切ノ理學國ガ承認シタモノデアアルガ
 之ニ依リ理事會ハ再ビ日本代表部ヨリ保證ヲ受ケタノデアアル
 右決議ガ失敗ニ歸シタ後日本ガ兩國ヲ疎隔サヤルニ至ツタ根本的問
 題ノ解決ノ必要ヲ主張シタ爲理事會ハ九月三十日ノ決議中ノ約束ノ履
 行ヲ防グルコトナクシテ兩國間ノ懸案ニ關シ兩當事國ガ最終的且根
 本的ニ解決ニ到達スル様援助ヤントスルニ至ツタノデアアル一九三一
 年十二月十日理事會ハ日本ノ爲シタ提議ニ基イテ現地調査ヲ爲シ且

朝鮮總督府

635 (0636

「國際關係ニ影響ヲ及シ日支間ノ平和又ハ平和ノ基礎タル相互ノ了
 解ヲ擾亂スルガ如キ虞アル一切ノ事情」ニ關シ理事會ニ報告スル
 様調令シ五名ノ委員ヲ以テ成ル委員會ヲ任命スルコトニ決定シタ
 然シ十二月ヨリ翌年三月迄ニハ極東ノ事態ニ極メテ悪化シ日本軍ハ
 南滿洲ノ占領ヲ完了シ更ニ北滿洲ノ占領ヲ開始シタノデアツタ又滿
 洲外ニ在ツテハ上海ニ於テ日支ノ正規軍ノ激烈ナル戦闘ガ開始セラ
 レ且續行セラレタノデアアル之ト同時ニ日本軍ノ占領シタ滿洲諸地方
 ニ於テハ行政組織改造セラレ其ノ結果トシテ支那ノ主權ヲ認メザル
 「滿洲國」ト稱スル「獨立國家」ガ組織サレタノデアアル爾後理事會
 ハ支那ヨリ右紛争ヲシテ規約第十一條第十條及第十五條ニ依ツテ解
 決スル様要請セラレタノデアアル一九三二年二月十九日理事會ハ規約
 第十五條第九項ノ條項ニ基キ支那ガ提出シタ要求ニ基キ紛争ヲ總會

朝鮮總督府

636 (0637

ニ付一月以來紛争ノ本質ニ付キ十分ナル調査ヲ遂ゲル爲ニ必要ナル
 調査委員會報告書ヲ接受スル迄ハ理事會從ツテ總會ハ敵對行爲ヲ停
 止シ又事懸ノ悪化ヲ防止シ更ニ當該國ノ權利及規約ノ原則ガ既成事
 實ノ爲害セラルルコトナキ様其全力ヲ致スコトニ最善ノ注意ヲ拂ツ
 タノデアアル總會ハ三月十一日ノ決議ニ依リ紛争ニ對スル聯盟ノ態度
 ヲ明カニシ且聯盟規約ニ依ル紛争ノ解決ニ至ル迄ハ聯盟規約又ハ巴
 里「條約」ニ反スル手段ニ依リテ實行サル如何ナル事懸、條約又ハ協
 定モ承認セザルコト、之即各聯盟國ノ義務ナリト宣言シタノデアアル
 上海ニ於ケル敵對行爲終止シタガ滿洲ニ於ケル日本軍又ハ「滿洲
 國」政府軍隊ト支那不正規軍トノ間ニ引續キ戰鬪ガ行ハレ一九三二
 年九月北平ニ於テ調査委員會報告書ノ署名後數日ニシテ事懸ノ根本的
 變化ガ更ニ發生シタノデアアツタ即チ日本政府ハ「滿洲國」政府ヲ承

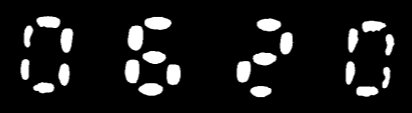
朝鮮總督府

637 0638

認シタノデアアツタ
 調査報告書ハ規約第十五條ニヨツテ六ヶ月ノ期間ヲ經過スルニ非ラ
 ザレバ即チ九月末日以前ニ於テハ「ジュネーブ」ニ到着スルモ其ノ
 效力ナキヲ以テ總會ハ當該國ノ承認ヲ經テ七月一日ニ前例トセズト
 ノ了解ノ下ニ右期間ノ延長ヲ決定シタ斯クテ調査委員會ハ其ノ報告
 ヲ現地ニ於テ完了スル事ヲ得、當該國ハ報告書ニ關スル自國ノ意見
 書ヲ提出シ又理事會及總會ハ斯ク蒐集サレタ一切ノ資料ヲ審査スル
 コトヲ得タノデアアル
 資料ノ審査及當該國トノ意見ノ交換ハ一九三二年十一月半ヨリ一九
 三三年二月初マデ經緯シテ理事會ノ討議ノ後總會ハ調査委員會報告
 書中ニ列舉サレタ情報及結論ヲ基礎トシテ第十五條第三項ニ基キ當
 該國間ノ交渉ニ依リ紛争ノ解決ニ達成ヤンコトヲ努力シタガ其努力

朝鮮總督府

638 0639



ハ不成功ニ終リタルヲ以テ總會ハ同條第四項ニ從ヒ本報告書ヲ採擇シタノデアアル

二、國際聯盟ニ提出サレタル紛争ノ起因、南滿洲ニ於ケル一九三一年九月十八日及十九日ノ事件
理事會最初ノ討議

支那方理事會ニ問題ヲ提出スルニ至ツタノハ日本軍ガ一九三一年九月十八日晚ヨリ十九日ノ朝迄ニ爲シタル行動ニ基クモノデアアル
奉天附近（註備考参照）ノ日本軍ノ守備スル南滿洲鐵道附屬地内ノ奉天附近一註、備考参照）ニ事件勃發セルヲ以テ日本ハ軍事制の警戒ヲ必要ナリトノ理由ヲ鐵道附屬地外殊ニ附屬地隣接ノ支那都市及奉天ヲ終點トスル支那鐵道ニ軍隊ヲ派遣シタノデアツタ
奉天、長春、安東、營口其ノ他ノ支那都市ハ日本軍ニヨツテ占領サ

639 (0640

レ支那軍ハ退放サレ或ハ武装解除ヲ受ケタ。

△備考

一九三一年九月二十一日支那政府方理事會ニ提起シタ訴ニヨレバ九月十八日晚十時ヨリ日本軍ノ正規兵ハ如何ナル挑戰ヲモ受ケルコトナクシテ奉天市及其ノ附近ニ於テ支那兵ニ對シ射擊及砲撃ヲ加ヘ兵工廠及兵營ヲ砲撃シ……彈藥庫ニ放火シ又長春、寬城子其ノ他ノ地ニアル支那軍ノ武装解除ヲナシタ（一九三一年十二月公報第二四五三頁参照）

九月二十六日理事會ニ通報セラレタ日本軍ノ説ニヨレバ一中尉ノ率ユル七名ノ巡察隊ハ奉天北方ノ鐵道附屬地ヲ巡察シツツアツタ際午後十時半頃後方ニ於テ大爆發ヲ聞キ方向ヲ轉ジタル處約五百米ノ北方爆發ノ起リシ地點近クニ支那兵ノ逃走シツツアルヲ認メ

640 (0641

タ爲巡察隊ハ之ヲ追跡シタガ掩蔽シ居リシ敵兵ニヨリ又次イデ四
五百ノ支那兵ヨリ射撃ヲ受ケタ爲日本軍中隊長ハ逸チ早ク百二十
名ノ兵ヲ率ヒ現場ニ到着シ支那兵ヲ追撃シ奉天北大營ノ一部ヲ占
領シタ(文書C六一二、一九三一、一九三一年十二月公報二四七
八頁)

調査報告書第四章ハ一九三一年九月十八日―十九日ノ晚發生シタ
ル事件ノ詳細ヲ記述シ此ノ事件ニ關シ委員會ノ意見ヲ述べ又其ノ
基礎トスル理由ノ記述ヲ添付シテ居ル(七十頁)

九月二十一日支那ハ規約第十一條ニヨツテ其ノ訴ヲ提起シ理事會ニ
對シ各國ノ平和ヲ危險ナラシムル事態ガ之レ以上進展スルコトヲ防
止シ事態ヲ以前ノ状態ニ復歸セシメ且中華民國ニ對シ支拂フベキ賠
償金額及種類ヲ決定ヤンコトヲ請求シタ。

641 (0642

九月二十二日理事會ハ理事會議長(スペイン代表エム・レロー氏)
ニ對シ

(一)兩國政府ニ對シ事態ヲ惡化シ若ハ問題ノ平和解決ニ支障トナルガ
如キ如何ナル行爲ヲモ差控フル様緊急要請ヲ發スルコト

(二)支那及日本代表ト協議シ兩國ガ其ノ國民ノ生命財産ノ安全ヲ危險
ナラシムルコトナクシテ各々其ノ軍隊ニ撤退シ得ベキ適當ナル方
法ヲ研究スルコト

ノ二項ヲ處理スベキ權利ヲ附與シタ

九月二十九日當時理事會議長ハ兩當事國ガ提供シテ情報ニ基キ總會
ニ事態ヲ説明スルニ當リ次ノ如ク陳情シタ

日本軍ノ南滿洲鐵道附屬地内ヘノ撤退ハ實行ヤラレツツアリ
九月二十八日日本代表ハ理事會ニ對シ撤退ハ進行シツツアリ……

642 0643

……鐵道附屬地外ニ於テハ吉林及奉天ヲ除キ新民屯及鄭家屯ニ於テ此ノ地方ニ當時横行シツツアツタ支那兵團ノ襲撃ニ對シ日本國民ヲ保護スル爲ニ小部隊ガ殘存シ居ルノミト聲明シタト右ノ如キ事態ニアツタ九月三十日ノ理事會ハ左ノ決議ヲ採擇シタ理事會ハ

(一) 理事會議長ガ支那及日本政府ニ對シ緊急要請シタニ對シ兩政府ヨリノ回答及其ノ要請ニ從ヒ既ニ執ラレタ處置ヲ承知ス

(二) 日本政府ガ滿洲ニ於テ何等領土的野心ヲ有ヤストノ同國政府ノ聲明ガ重要ナルコトヲ認ム

(三) 日本政府ハ其ノ國民ノ生命及財産ノ安全ガ有效ニ確保セラルルニ從ヒ既ニ開始サレタ某軍隊ノ鐵道附屬地内ヘノ撤退ヲ能フ限リ速ニ續行スベキ事及成ルベク迅速ニ右ノ意圖ヲ完全ニ實現センコト

643 (0644

三期スル旨ノ日本代表ノ聲明ヲ了承ス

(四) 支那政府ハ日本軍隊ガ撤退ヲ續行スレバ鐵道附屬地外ニ於ケル日本國民ノ生命財産ノ安全ニ對スル責任ヲ負ヒ且支那地方官憲及警察官ヲ再ビ整備スル旨ノ支那代表ノ聲明ヲ了承ス

(五) 兩國政府ガ相互間ノ平和及良好ナル了解ヲ擾亂スル虞アル一切ノ行爲ヲ避ケンコトヲ欲スルヲ價ジ各自ニ事件ノ範圍ノ擴大又ハ事態ノ悪化ヲ防止スル爲一切ノ必要ナル處置ヲ執ルベキ保障ヲ支那及日本政府ヨリ與ヘラレタコトヲ了承ス

(六) 兩當事國ニ對シ兩國間ノ正常關係ノ回復ヲ促進シ及之ガ爲前記約定ノ履行ヲ續行シ且速ニ完了スル爲能フ限リノ一切ヲ爲スベキコトヲ請求ス

(七) 兩當事國ニ對シ兩國間ノ事態進展ニ關スル全情報ヲ折々理事會ニ

644 (0645

提供ヤンコトヲ請求ス

(八)一九三一年十月十四日(水)ゼネヴァニ於テ再ヒ會合ノ開催ヲ必要トスルガ如キ何等豫期セザル事件發生シ居ラザル爲現在ノ事態ニ對シテ左ノ事項ヲ決定ス

(九)理事會ハ議長ニ對シ理事會並ニ特ニ兩當事國代表ト協議ノ結果議長カ兩當事國並ニ他ノ理事國ヨリ得タル紛争ノ進展ニ關スル情報ニ鑑ミ更ニ會合ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ十月十四日ニ開クベキ理事會ヲ取消ス事ヲ得ル權限ヲ附與ス

右理事會ノ希望ハ達成サレナカツタ十月九日支那代表部ハ日本軍ガ更ニ侵略的軍事行動ヲ開始シタ爲理事會ノ緊急會合ヲ要請シテ來タガ右ハ奉天占領後省政府ガ設置シタ滿州ノ空中爆撃ヲ主トシタモノデアル

朝鮮總督府

朝鮮總督府

理事會ハ其ノ九月ノ會合ニ於テ日支紛争ニ關スル理事會ノ議事録及同紛争ニ關スル文書ヲ米國合衆國政府ニ送附スルコトニ決定シ又合衆國政府ハ聯盟ノ態度ニ對スル滿洲ノ同情ヲ表明シタ十月十六日理事會ハ米國政府ト引續キ協力スルコトニ決定シ同政府ヨリ理事會ニ列席スベキ一名ノ代表ヲ派遣ヤンコトヲ招請シタ

米國代表ハ巴里條約ノ規定ト滿洲ニ於ケル現下ノ不幸ナル事態トノ間ノ關係ヲ理事會ト共ニ審議且同時ニ理事會ガ現ニ直面シツツアル問題ノ他ノ方面ニ關シテ理事會ノ審議ヲ注視スルノ權限ヲ本國政府ヨリ附與セラレタ

十月十七日理事會ニ代表ヲ出ヤル若干ノ政府(英國、佛國、獨逸、アイルランド自由國、伊國、諾威及西班牙)ハ巴里條約ノ署名國トシテ支那及日本政府ニ對シ同文書ヲ送付シ同條約ノ規定特ニ「締結

國ハ相互間ニ起ルベキ一切ノ紛争又ハ紛議ヲ其ノ性質又ハ起因ノ如何ヲ問ハズ平和手段ニ依ル外之ガ處理又ハ解決ヲ求メザルコトヲ約スルトノ第二條ノ規定ニ付兩政府ノ注意ヲ喚起スルコトニ決定シタ
米國政府ハ兩政府ニ對シ右ト同様ノ書翰ヲ送付シタ
十月二十二日理事會議長（佛國代表ブリアン氏）ハ一ノ決議案ヲ提出シテ來タガ當聯國以外ノ理事國ハ全會一敷ヲ以テ之ニ同意シタガ
右決議案ハ九月三十日ノ決議ニ於テ支那及日本政府ノ爲シテ約定成
ニ日本ハ滿洲ニ於テ何等領土の企圖ヲ有ヤストノ日本代表ノ聲明ニ
普及シタ後日本政府ニ對シ鐵道附屬地内ヘノ日本軍ノ撤收ヲ直ニ開
始シ且ツ之ヲ續行シ以テ理事會ノ次回ノ會合前ニ全軍隊ガ撤收セラ
ルル様要求シ又他方支那政府ニ對シテ右撤兵ヤラレタル地域ノ接收
措置トシテ該域ニ於テ日本臣民ノ生命及財産ノ安全ヲ確保シ得ルガ

如ク要求シ且之ガ爲教ラルベキ若干ノ細目的手段ヲ提言シタ
兩政府ハ撤兵完了後速ニ兩國間ノ一切ノ懸案特ニ今次ノ事件ヨリ發
生シタ問題及滿洲ニ於ケル鐵道ノ事變ヨリ發生シタ問題ニ付直接交
渉ヲ開始スベシトノ勸告ヲ受ケテ右目的ノ爲理事會ハ兩當聯國ガ議
和委員會又ハ同種ノ恒久的機關ヲ設置スベキコトヲ提言シタ最後ニ
理事會ハ十一月十六日再ビ會合スベク提案ヤラレタ
十月二十三日支那代表ハ右ノ決議案ヲ「絕對的最小限度」トシテ承
諾シタ日本代表ハ一ノ對案ヲ提出シ且日本國政府ハ滿洲ノ危殆且無
秩序ノ狀態ニ顧ミテ撤兵ヲ完了シ得ル確定期日ヲ決定シ得ザル旨ヲ
説明シタ日本國政府ハ人心ノ鎮靜ガ回復ヤラルル事ヲ絕對ニ必要ナ
リト認メ且右目的ヲ念頭ニ置キ支那及日本間ノ正常關係ノ基礎トナ
ルベキ幾多ノ根本的項目ヲ決定ヤント欲シタガ日本代表ハ此ノ根本

朝鮮總督府

的要項ヲ決議中ニ敘述シ又ハ理事會ノ席上ニ於テ之ガ細目ニツキ討
議スルノ權限ヲ與ヘラレナ居ナカツタノデアルカラシナ右要項ハ事
ロ之ヲ當事國間ノ直接交渉ノ問題トシタ方ガ良カツタノデア
理事會ハ右要項ガ如何ナルモノナルカヲ知ラズシテ前記決議案中ニ
右要項ヲ採擇スルコトハ不可能デアルト考ヘタ

右決議案ハ日本代表ガ反對投票ヲ爲シタメ採擇サレナカツタ
（一九三一年十月二十四日）理事會ハ表決ニ付シタ後十一月十六日
迄休會シタ

十月二十四日ノ會合後支那代表ハ本國政府ニ代リ理事會議長ニ次ノ
宣言ヲ爲シタ

「支那ハ各聯盟國ト同様規約ニ依リ一切ノ條約上ノ義務ヲ嚴ニ尊重
スルノ義務ヲ有スル支那政府ハ規約ニ基ク一切ノ義務ヲ忠實ニ履

朝鮮總督府

行スルコトヲ決心シ居リ支那政府ハ規約第十三條ニ規定スル如ク條
約ノ解釋ニ關スル日本ト一切ノ紛争ヲ仲裁裁判若ハ司法的解決ニ委
サルコトヲ約シ以テ右意志ノ證據ヲ示スノ用意アリト

右目的ノ實行上支那政府ハ米國及支那間ニ最近締結セラレタルモノ
又ハ近年聯盟國間ニ逐次締結セラレツツアルモノト同様ノ仲裁裁判
條約ヲ日本ト欣ンデ締結スルモノデア
三、北滿洲ニ於ケル日本軍事行動ノ進展

十月ノ理事會會合ノ後滿洲ニ於テハ洮南昂々溪鐵道ノ嫩江橋梁附近
テ更ニ日本ノ軍事行動ガ行ハレタ此等ノ橋梁ハ支那ノ言ニ據レバ日
本ノ煽動ニ依リ攻撃ニ出タ張海鵬將軍ノ進軍ヲ阻止スル爲黒龍江省
政府主席馬占山將軍ノ軍隊ニ依リ十月破壞セラレタノデアツタ

此等橋梁ノ修理ニ關スル日本側ノ干涉ヲ正當トスル爲東京政府ハ支



那政府ニ對シ洮南昂々溪鐵道ハ兩滿洲鐵道會社ガ購買契約ノ下ニ建設セラルモノナルコト、支那官憲ハ未ダ其ノ債務未拂ナルコト、右債務ヲ借款ニ振替フルコトヲ拒絶シタコト、從ツテ右鐵道ハ財産ノ保全及鐵道運行ノ維持ニ關シ大ナル利害ヲ有シテ居ル兩滿洲鐵道會社ニ屬シテ居ルモノト認ムベキダト主張シタ

十一月二日日本政府ハ兩滿洲鐵道會社及洮昂鐵路局ノ請求ニ基キ軍隊(歩、砲、空軍)ノ掩護ノ下ニ同日工兵ノ一隊ガ鐵道橋梁修理ノ爲派遣シタ事ヲ聲明シタ

日本軍ハ支那軍ト交戦シ支那軍ハ頑強ニ抵抗シタガ遂ニ擊退サレタ日本軍ハ十一月東支鐵道ノ線ニ達シタノミナラス之ヲ橫斷シテ昂々溪ヲ占領シ次テ十一月十九日齊々哈爾濱ヲ占領シタ

四、滿洲ニ於ケル行政組織ノ改組處理

軍軍行動ガ滿洲北部ニ向ヒ擴大サレタ一方行政制度ノ改正モ亦進展シテ來タ特ニ奉天ニ於テハ九月十八日ノ暴變ニ因ル混亂ノ後市政ハ先ヅ土肥原日本陸軍大佐ニ次テ東京大學ノ法學博士タル市長趙欣伯博士ニ委ネラレ又錦州ニ逃レタ政權ニ對抗シテ遼寧省政府ヲ組織スル爲ノ努力ガ行ハレツツアツタ

九月二十四日設立サレタ「地方維持委員會」ハ十月遼寧省自治公署トナリ次イデ同署ハ十一月七日臨時遼寧省政府ニ改メラレ舊東北政府及南京國民政府トノ關係ヲ斷絶シタ旨聲明シタ同時ニ最高諮問會ヲ設立シタカ其ノ會ノ任務ハ省政府ヲ指導及監督シ又地方自治ノ發達ヲ奨励スル事ニアツタ總テノ新官廳及諸發券銀行ニハ多クノ場合南滿鐵道ノ有力社員デアツタ日本人顧問ガ配置サレタノデアツタ

支那代表ハ日本軍ガ奉天、吉林其ノ他ノ占領地ニ於テ「日本軍司令

朝鮮總督府

官ノ傀儡チアリ且走狗チアル所ノ新官憲ヲ樹立シ且支持シト主張シタ

日本代表ハ「日本官憲トシテハ支那人自身ガ秩序維持ニ任ズル團體ヲ組織スル様ニ獎勵スルノ外ナカツタ……數度ノ機會ニ於テ公式ニ聲明シタ通り日本政府ノ希望タル軍隊ノ撤收ハ此團體ガ充分ニ任務ヲ遂行スルコトニ依ツテ大ニ迅速且容易トナルモノデアル」ト回答シタ

加之醫務監察官長「ドクトル、フレデリック、エー、クリブランド」ノ數回ノ報告ハ支那代表部ニヨツテ一九三一年十一月理事會ニ通報セラレタ

此ノ報告ニハ日本軍當局ガ滿洲各都市ノ鹽稅ヲ強制的ニ差押ヘテ居ル旨ヲ述ベタ、日本側ノ報告中ニハ「支那鹽務所ノ收入ノ剩餘金ヲ

653 0654

朝鮮總督府

他ノ支那團體（地方維持委員會）ニ移轉スル爲ノ軍軍當局ノ干涉ヲ不正當ナリト認ムルコトハ出來ナイ」ト主張シタ

五、一九三一年十一月及十二月ノ理事會會議調查委員會ノ設置

理事會ハ一九三一年十一月十六日及同二十一日巴黎ニ於テ開カレタガ其ノ間ニ於テ調査委員ヲ極東ニ派遣スベシトノ日本ノ提案ガ提出セラレタガ其ノ際日本ハ「右委員會ノ創設及派遣ハ九月三十日ノ決議ニ依リ滿鐵附屬地内ニ其ノ軍隊ヲ迅速ニ撤退セントスル日本政府ノ眞摯ナル希望ヲ盡モ變更スルモノデナイ」ト附ケ加ヘタ

右提案審議セラレソノ結果十二月十日理事會ハ左ノ決議ヲ採擇シタ

「理事會ハ

(一)兩當軍國ガ嚴肅ニ拘束サレルベキノ宣言ヲシタル一九三一年九月三十日理事會ノ全會一致可決シタ決議ヲ再ビ確認スル故ニ

654 0655



朝鮮總督府

事會ハ支那及日本政府ニ對シテ右決議ノ實行ヲ確實ナラシムル爲ニ必要ナル一切ノ處置ヲ講ゼンコトヲ要求スル。カクスレバ右決議ノ條件ノ下ニ於テ日本軍ノ鐵道附屬地内ヘノ撤退ハ迅速ニ達成サレルデアラウ

(二) 十月二十四日ノ理事會以來ノ事態ニ重大ナル變化ヲ來タシタルニ鑑ミ兩當事國ハ之以上事態ノ惡化ヲ避ケル以上ニ於テ必要ナル一切ノ措置ヲトルコト及此以上戰鬪若ハ生命ノ喪失ヲ惹起スルガ如キ一切ノ自發的行動ヲ差控ユルコト承ツテ置ク

(三) 兩當事國ハ事態ノ進展ニ關シ引續キ理事會ニ通報スルコトヲ要ス

(四) 他ノ理事國ニ對シ其現地ニ駐在スル代表者ヨリ得タル情報ヲ理事會ニ提供スルコトヲ求ム

655 (0656

朝鮮總督府

(五) 上記諸措置ノ實行トハ何等關係ナク本件ノ特殊事情ニ鑑ミテ兩政府ニ依ル兩國間ノ紛争問題ノ終局的且根本的解決ニ寄與センコトヲ希望シ、國際關係ニ影響ヲ及ボシ支那及日本間ノ平和又ハ平和ノ基礎タル兩國間ノ良好ナル理解ヲ擾亂スル虞アル一切ノ事情ニ付キ現地ニ於テ事情ヲ調査シ且之ヲ理事會ニ報告ヤンガ爲五名ヨリ成ル一委員會ヲ任命スルコトヲ決定ス

支那及日本政府ハ右委員會ヲ援助スル爲各一名ノ參與員ヲ指名スル權利ヲ有ス

兩政府ハ右委員會ガ其ノ必要トスル一切ノ情報ヲ現地ニ於テ入手ヤンガ爲各般ノ便宜ヲ供與スルコト

兩當事國ガ何等カノ交渉ヲ開始セントスル場合ハ右交渉ハ同委員會ノ附託事項ノ範圍内ニ屬スルコトナク又何レカノ當事國ノ

656 0657

軍事的措置ニ干渉スルコトハ同委員會ノ權限ニ屬セザルコトト
 ス
 右委員會ノ任命及審議ハ日本軍隊ノ鐵道附屬地内ヘノ撤退ニ關
 シ九月三十日ノ決議ニ於テ日本政府ノ與ヘタル約東ニ何等影響
 ツ及ボサザルコト
 (内)今ヨリ一九三二年一月二十五日ノ通常理事會開會迄ノ間ニ於テ
 ハ本件ヲ附託サレテ居ル理事會ハ理事會議長ニ對シテ本件ノ經
 過ニ注意シ若シ必要アル場合ハ新ニ理事會ヲ招集ヤンコトヲ求
 ム
 議長「佛國代表(ブリアン)氏」ハ右決議書提出ノ際理事會ハ一九
 三一年九月三十日ノ決議ヲ最も重要視シ而シテ兩國政府ガ右決議ニ
 依リ爲シテ約定ヲ完全ニ履行スベキコト並ニ此レ以上戰闘ヲ惹起ス

657 0658

ルガ如キ一切ノ積極的行動及事變ヲ惡化セシムル虞アル其ノ他ノ一
 切ノ行動ヲ差控ユルコトハ更ニ必要ニシテ且緊急ナルコトヲ強調シ
 タ
 米國政府ハ十二月十日ノ決議案ガ採擇サレタ際ニハ事件ハ決定的進
 歩ヲ見ルデアラウト満足ノ意ヲ表シタ
 六、日本軍ノ錦州ニ對スル軍事行動
 南滿洲ニ於ケル支那政權ノ最後ノ殘骸ノ消滅
 理事會ガ右決議案ヲ起草中兩當事國ハ西南滿洲ニ軍事行動ノ危險ガ
 擴大シテキル事ヲ訴ヘテ數回ニ互リ理事會ノ注意ヲ促シ且日本軍ト
 錦州ニ於ケル強學良元帥ノ軍隊トノ間ニ一中立地帯ヲ設立ヤントス
 ル努力ガ行ハレタガ右努力ハ不成功ニ終ツタ日本代表ハ「滿洲各地
 ニ於テ猖獗ヲ極ムル匪賊及不逞ノ徒ノ跳梁ニ對シ日本臣民ノ生命及

658 0659

朝鮮總督府

財産ノ保護ニ直接備フルニ必要ナルベキ行動ヲ日本軍ガ執ルコトニ對シ理事會ハ之ヲ妨グル意圖ヲ有セズトノ了解ノ下ニ十二月十日ノ決議第二項ヲ受諾シ「右ノ如キ軍事行動ハ滿洲現下ノ特殊狀況ニ基ク例外的措置デアツテ同地方ハ通常ノ狀態回復セララルト共ニ日本軍ノ行動ハ自然其ノ必要ナキニ至ルベシ」ト述ブル所ガアツタ

十二月二十三日日本軍ノ攻撃ハ錦州ニ向ヒ開始セラレ同地ハ一九三二年一月三日占領セラレテ次第日本軍ハ長城迄進出シ長城ノ南方ニアル山海關ニ駐屯スル日本軍トノ聯絡ヲ切ツタ此等軍事行動ノ結果支那側ノ組織アル政權ハ全ク南滿洲ヨリ消滅シタノデアアル

七、上海事變及其ノ原因

滿洲以外ニ在リテハ上海ニ於テモ一九三二年一月以後事態ガ悪化シ

659 (0660

朝鮮總督府

上海ニ關シテハ一九三二年二月初旬現地ニ設置セラレタ領事團調査委員會ガ事件當初ヨリ三月五日迄ニ生ジタ出來事ニ關スル四個ノ報告ヲ聯盟ニ提出シタ

其ノ後出來事ハ一九三二年一月設置セラレ三月十四日上海ニ到着シタ調査委員會ノ報告書ニ記述サレテ居ル

調査委員會報告書ニ記述サレテアル通り朝鮮ニ於テ起ツタ重大ナ反支暴動ハ一九三一年七月以後支那ノ他ノ地方ニ於ケルト同様ニ上海ニ於テモ日貨排斥ヲ招來シタ、日本軍ノ滿洲占領ハ「ボイコット」ヲ激化シ右「ボイコット」ハ若干ノ場合ニ於テハ公的機關及支那政府ノ積極的支持ヲ受ケタノデアアル

日本ノ貿易ハ大ナル損害ヲ被リ兩國民間ノ緊張ハ尖鋭化シ且重大ナル諸事件ヲ惹起スルニ至ツタ其ノ結果上海日本在留民ハ排日運動

660 0661

朝鮮總督府

歴ノ爲軍隊及軍艦ノ派遣ヲ請願シ日本總領事ハ大上海支那人市長ニ
 五項ノ要求ヲナシ右要求中ノ二項（排日運動ニ對スル充分ノ取締、
 敵愾心並ニ排日暴動及擾亂行爲ノ養成ニ從事シタ一切ノ排日機關ノ
 即時解散）ニ關シ市長ハ之ヲ受諾スルコト困難ナル旨一月二十一日
 宣言シタノデアツタ
 同日日本海軍司令官ハ若シ支那人市長ノ回答ガ不満足ナル場合ハ同
 官ハ日本ノ權利及利益ヲ擁護スルニ必要ナル手段ヲ執ル決心アルコ
 トヲ聲明シタ一月二十四日日本海軍ノ救護隊上海沖ニ到着關北支那
 街ノ支那軍モ亦増援ヲシツアルトノ風説ガ行ヘレタ一月二十七日
 日本總領事ハ其ノ要求ニ對スル満足ノ回答ヲ翌朝六時迄ニ爲スコト
 ヲ要求シタ
 列國代表ニ對シ衝突ヲ避クル爲能フ限リノ讓歩ヲ爲ス意志アル旨通

661 (0662

朝鮮總督府

告シタ市長ハ排日「ボイコット」團體ノ鎮壓ニ成功シ且支那警察官
 ハ一月二十七日夜間ヨリ二十八日ニ至ル迄ニ多數ノ事務所ヲ封鎖シ
 タ一月二十八日朝日本海軍司令官ハ他ノ外國指揮官ニ對シ支那側ガ
 満足ナル回答ヲ與ヘザリシ場合ハ翌朝行動ヲ開始スルコトノ意志ア
 ル旨ヲ通報シタ共同租界工部局ハ會合シテ同日午後四時ヨリ戒嚴令
 ヲ布クコトニ決定シタ午後四時日本總領事ハ領事團ニ對シ日本ノ要
 求ヲ總テ答ルル旨ノ支那側ノ回答ヲ接受シタ事及右回答ハ全ク満足
 ナルモノデ差當リ如何ナル行動モ執ラザルコトヲ通報シタ
 一方共同租界ノ防備委員會ハ緊急狀態ニヨリ必要ト爲ツタ處置ヲ執
 リ諸外國軍隊ニ其ノ防備スベキ區域ヲ割當テタ、防備委員會ノ定メ
 タ日本軍ノ防備區域ハ租界ノ一部ノミナラズ之ヲ超エテ上海吳淞鐵
 道ヲ西部境界トスル凸突部ヲ包含シテ居タ日本海軍ノ本部ハ右凸突

662 (0663



朝鮮總督府

部ノ北端ニ近キ所ニアリ且平時ニ於テハ日本陸軍ノ駐屯所ハ上海
 工部局ニ屬スル北四川路及狄恩威路ノ二道路上ニ設ケラレ居タノデ
 アル午後十一時日本海軍司令官ハ緊急状態ニ關シテ多數日本國民ノ
 在住スル關北ノ狀況ヲ憂慮シ帝國海軍ヲ同方面ニ派兵スルコトニ決
 定シテ旨ヲ聲明シ且關北ニ駐屯スル支那軍ガ速カニ鐵道以西ニ撤退
 ヤンコトヲ希望シタ
 一時間ノ後日本海軍陸戰隊及武裝ヤル目警團ハ鐵道ノ方向ニ向ヒ進
 出シテ事實最後部隊ハ租界及防備區域域外ニ通スル河南路ノ門ヨリ
 停車場ニ到達ヤント企テ右金剛ハ該防備區域警護ノ任ニ當リ且防
 備軍ノ義務ハ防禦ニ在リテ攻撃ニ在ラストノ原則ニ基ク命令ヲ受ケ
 テ居タ上海義勇軍ニ依リ阻止サレタ
 防備計畫ニ從ツテ關北防備區域ニ派遣サレタ日本軍ハ支那軍ト交戦

663 0664

朝鮮總督府

スルニ至ツタガ右支那軍ハ備軍團委員會ノ第一報告ニモ記シアル通
 リ撤退ヤント欲シテモ其撤退ノ邊ガナカツタノデアラウ
 八、上海ニ於ケル敵對行爲、理事會ノ討議、規約第十條ノ引用、第十
 五條ニ依ル總會ノ第一回討議、上海ニ於ケル敵對行爲ノ終熄
 以上ガ上海ニ於ケル戰鬪ノ發端デアツテ當時セネヴァニ於テ開會中
 ノ理事會及上海ニ特殊ノ利益ヲ有スル諸國ハ數回ニ互リ戰鬪停止ニ
 努力シタ。
 上記ノ重大事變發生直後支那ハ該紛争ガ第十條及第十五條ニ依リ處
 理サルベキコトヲ一月二十九日ニ要求シタ。
 二月十六日支那及日本ヲ除ク其ノ他ノ理事會國ハ日本政府ニ對シ緊急
 ノ要請ヲ爲シ規約第十條ニ關シ其ノ注意ヲ促シタガ之ノ條項ニ基イ
 テ此等理事會國ハ「同條項ヲ無視シテ行ハレタ聯盟國ノ領土保全ノ侵

664 0665

害及其政治的獨立ノ變革ハ聯盟國ニヨリ有效且實質的ト認メラレ得
 ナイ」旨ヲ承認シテ居ル
 二月九日理事會ハ支那ノ請求ニ基キ該紛争ヲ總會ニ附託シテ、總會
 ハ三月三日招集サレタ。
 理事會ハ總會開催ニ先ダテ現地ニ於ケル停戰協定ノ成立ヲ條件トシ
 ナ圓卓會議ヲ上海ニ於テ開催スベク二月二十九日ニ提案シテ停戰ノ
 最後ノ努力ヲナシタ。
 理事會ノ提案ハ實行サルルコトナク戰闘ハ繼續セラレ其ノ結果總會
 ハ三月三日兩當事國代表ノ書分ヲ總取シテ後三月四日左ノ決議ヲ採
 擇シタ
 「總會ハ二月二十九日理事會ノ提議ヲ尊重シ且右提議中ニ包含セラ
 レタ種々ナル方法ヲ重シテ更ニ

朝鮮總督府

665 (0666

(一) 既ニ通報ヲ受ケタル如ク停戰ノ爲雙方ノ軍隊司令官ガ發シタル
 命令ヲ有效ナラシムルニ必要ナル措置ヲ直ニ執ランコトヲ支那
 及日本ノ政府ニ要求ス
 (二) 上海租界ニ特殊ノ利益ヲ有スル諸外國ニ對シ前項規定招請ノ方
 法ヲ總會ニ通報ヤンコトヲ要求ス
 (三) 戰闘ノ停止ヲ決定的ナラシメ且日本軍ノ撤退ヲ規定スル協定締
 結ノ爲前記諸外國ノ陸海軍官憲及文官ノ援助ヲ種ナ支那及日本
 ノ代表ニ依リ交渉ノ開始セラルベキコトヲ勸告ス總會ハ前記諸
 外國ガ右交渉ノ進行状態ヲ通報セラルンコトヲ希望ス
 三月五日米國政府ハ在上海同國陸軍官憲ニ對シ協力スベキ旨ノ訓令
 ヲ發シタコトヲ通報シテ來タ
 三月十四日上海ニテ右提議ノ如キ交渉ガ開始サレ總會ガ設置シタ十

朝鮮總督府

666 0667

九ヶ國委員會ハ困難ヲ緩和スルタメ支那ノ要求ニ基キ二回ニ互リ干渉シタ、五月五日遂ニ上海ニ於ケル停戰協定署名サレ尙要六日ニハ日本軍ノ撤收ガ開始セラレタ、日本ヨリ上海ニ派遣セラレタ諸師團ハ五月三十一日迄ニ乗船歸國ノ途ニ就キ右諸師團ノ一ヶ師團タル第十四師團ハ滿洲ニ派遣セラレタ、七月一日總會ハ日本海軍陸戰隊ノ兵員數ハ著シク減少シタガ五月五日ノ協定ニ從ツテ租界及特別租界外ノ道路ニ隣接シタ數個ノ地點ニ尙一時的ニ駐屯シ居ルトノ通報ニ接シタ此等ノ部隊ハ其ノ後撤退セラレタ

支那側ハ上海ニ於ケル日本ノ干渉ノ結果約二萬四千人ノ軍人及市民ノ死傷者及行方不明ヲ出シ且其物質的ノ損害ハ約十五億(メキシコ弗)ト推算シテ居ル

九、滿洲ニ於ケル日本側占領ノ進展、行政制度改革ノ進展及滿洲國

667 0668

ノ建設

上海事件進行中モ尙滿洲ニ於テハ事態ノ進展ヲ見タ

哈爾濱ハ二月五日日本軍ノ占領スル所トナツタガ日本軍ハ其ノ後數箇月間舊支那軍ノ殘軍「義勇軍」「匪賊」及其他ノ「不正規軍」ニ對シ引續キ軍事行動ヲ執リ滿洲ノ各地ニ互ツテ小衝突ガ繼續サレタ

行政制度ノ改革モ亦進捗シ前述ノ如キ第一次ノ改正ガ行ハレタ。

一九三二年二月十七日全滿洲ニ對シ最高行政委員會ガ設置セラレ且二月十八日ニハ同委員會ハ獨立宣言ヲ發シ二月十九日日本代表ハ「セネヴァ」ニ於ケル理事會ノ會合ノ席上ニ於テ滿洲ニ於テハ「獨立」ハ「自治」ト同意義ノ語ナル事及「日本ハ右獨立ノ樹立ニ對シ好意ヲ有スル」旨ヲ説明シタ三月九日地方行政機關ハ「滿洲國」ナル名稱ノ一獨立國家トシテ合併セラレタ

668 0669

ヘンリー溥儀氏（前宣統帝）ハ同國家ノ執政ニ就任スルコトヲ受諾シ
 タ。
 支那政府ハ既ニ一九三一年十一月十七日「前宣統帝ハ彼ヲ皇帝トシテ
 推戴セントスル幽靈政府樹立ノ目的ノ爲日本人ニ依ツテ天津日本租界
 ヨリ勝拐サレ奉天ニ護送サレタ」旨ヲ聲明シタガ更ニ「所謂滿洲國ナル
 モノハ最初ヨリカカル事情ニ在リ且其ノ後ノ各過程ニ於テモ滿洲ニ在
 ル日本軍ノ煽動ニ依リ創立サレ且其ノ援助ニヨリ維持セラレタノデア
 ル」ト反覆攻撃シタ
 十、總會ノ討議、三月十一日ノ決議、第十五條ニ基ク報告準備ノ期限
 ニ關スル決定
 此ノ期間ニ總會ハセネヴァニ於テ紛争ノ調査ヲ續行シ來ツタガ十分ナ
 ル討議ノ結果三月十一日次ノ決議案ヲ採擇シタ

669 0670

(一)總會ハ規約ノ條項ガ今次ノ紛争ニ全部適用サルベキモノデアリ殊
 ニ次ノ諸點ニ關シ然ルヘキモノナルコトヲ考慮シ
 1、條約ノ嚴重ナル尊重ノ原則
 2、聯盟國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ヨリノ
 侵略ニ對シ之ヲ擁護セントノ聯盟國ガ爲シタル約定
 3、聯盟國間ニ發生スル一切ノ紛争ヲ平和的解決方法ニ附スルノ
 聯盟國ノ義務
 聯盟理事會代理議長「ブリアン」氏ガ一九三一年十二月十日ノ宣言
 中ニ表明シタ原則ヲ採擇シ
 十二國理事會ハ一九三二年二月十六日ノ日本政府ニ對シテナナル其要
 請中ニ再ビ右諸原則ヲ引用シ「規約第十條ヲ無視シテ行ハレタル聯
 盟國ノ領土保全ノ侵害及其政治的獨立ノ變革ハ聯盟國ニ依リ有效且

670 0671

ツ實效的ト認メラルルコトヲ得ズト宣言シ而シテ國際關係ヲ規律
 スル原則及聯盟國間ノ紛争ノ平和的解決ニシテ上ニ想起セラレタル
 モノハ世界ノ平和組織ノ支柱ノ一ヲナシ巴里條約ノ第二條「締約國
 ハ相互間ニ起ルコトアルベキ一切ノ紛争又ハ紛議ハ其ノ性質又ハ起
 因ノ如何ヲ問ハズ平和的手段ニ依ルノ外之方處理又ハ解決ヲ求メザ
 ルコトヲ約ス」トノ趣旨トモ全然調和スルモノト信ズ而シテ又總會
 ニ付託マラレタ紛争解決ノ爲總會ガ最後ニ執ルベキ措置ニ出ツル點
 迄ハ以上ノ原則及規定ノ拘束的性質ヲ宣明シ且聯盟規約及「巴里」
 條約ニ違反スル手段ニヨリ獲得セラレタ一切ノ專横條約又ハ協定ヲ
 認メザル義務アルコトヲ宣言ス

(二)總會ハ日支紛争ノ解決ガ當國ノ一方ノ武力的壓迫ノ下ニ解決サル
 ベキコトハ規約ノ精神ニ反スルコトヲ確認シ一九三一年九月三十日

朝鮮總督府

671 (0672

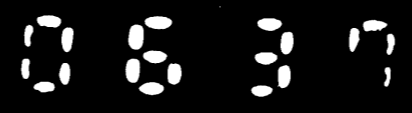
及同年十二月十日兩當國ノ同意ノ下ニ理事會ガ採擇シタル決議
 ヲ想起シ一九三二年三月四日ノ總會ニテ確定的停戦及日本軍撤退
 ノ目的ヲ以テ兩當國ノ贊同ヲ得テ採擇セラレタ決議ヲ合併セテ
 想起シ同時ニ上海租界ニ於テ特殊ノ利益ヲ有スル聯盟國ガ右目的
 ノ爲凡ユル援助ヲ與ヘントスル用意アルコトヲ了承シ此等ノ諸國
 ニ對シ必要アル場合ハ撤退地域内ニ於ケル秩序維持ノ爲協力ヤン
 コトヲ要求ス

(三)總會ハ

本件ノ紛争ニ關シ國際聯盟規約第十五條ニ規定セラレタル手續續
 ヲ適用ヤントスル旨ノ一月二十九日支那政府ノナセル要求ニ鑑ミ
 且規約第十五條第九項ニヨリ該紛争ヲ總會ニ付託ヤントスル旨ノ
 二月十二日支那政府ノナセル要求及二月十九日ノ理事會ノ決議ニ

朝鮮總督府

672 (0673



朝鮮總督府

備、總會ガ支那政府ノ要請ノ目的タル該紛争ノ全般ノ附託ヲ受ケ
 タルコト並ニ規約第十五條第三項規定ノ和解手續及必要ナル場合
 ハ同條第四項規定ノ勸告ニ關スル手續ヲ適用スルノ義務アルコト
 ヲ考慮シ依ツテ十九名即チ委員長タルベキ總會議長紛争當事國ヲ
 除ク他ノ理事國及秘密投票ニヨリ選舉セラルベキ他ノ六聯盟國ヨ
 リ成ル一委員會ヲ設置スルコトニ決定ス
 總會ヲ代表シ且其ノ監督ノ下ニ職務ヲ決行スベキ右委員會ハ次ノ
 任務ヲ有スベシ
 1、停戦及停戦ヲ確實ナラシムベキ處理且一九三二年三月四日ノ
 總會決議ニ從ヒ日本軍ノ撤收ヲ規定スベキ取極メノ締結ニ關ス
 ル報告ヲ迅速ニ作成スルコト
 2、一九三一年九月三十日及十二月十日理學會ガ採擇シタル決議

673 (0674

朝鮮總督府

ノ實施ヲ監視スルコト
 3、規約第十五條第三項ニ從ヒ兩當事國ノ合意ノ下ニ該紛争解決
 準備ニ努力シ且總會ニ説明書ヲ提出スルコト
 4、必要ノ際ハ常設國際司法裁判所ニ對シ諮問的意見ヲ求ムルコ
 トヲ總會ニ提案スルコト
 5、必要アル際ハ規約第十五條第四項規定ノ報告書ヲ準備スルコ
 ト
 6、必要ト認メラルル一切ノ緊急措置ヲ提案スルコト
 7、迅速ニ且遅クトモ一九三二年五月一日迄ニ總會ニ專断ニ關ス
 ル第一回報告書ヲ提出スルコト
 總會ハ理學會ニ對シ其ノ有ユル意見ト共ニ理學會ガ總會ニ通報ス
 ルコトヲ適當ト認ムル材料ヲ右委員會ニ通報ヤンコトヲ要求ス

674 0675

總會ハ會期ヲ繼續シ且議長必要ト認ムル場合ハ直ニ之ヲ招集スル
コトヲ得

三月十二日米國政府ハ總會ノ行動ニ依ツテ「巴里」條約及聯盟規約
ノ基礎ヲ成ス秩序及正統ノ原則カ國際法ノ中ニ包含セラルルニ至ツ
タト宣言シタ

米國政府ハ右諸條約ノ違反ニヨリ達成セラレタ結果ノ效力不承認政
策ヲ世界各國民ガ擧ツテ採用シタガ右ハ國際法ニ對スル顯著ナル買
欺ニシテ且平和確立ノ基礎ヲ建設ヤンモノトシテ特ニ満足ノ意ヲ表
シタ

總會ハ一九三二年七月一日ニ調査委員會報告書ガ九月迄ニ完成シ得
ザル旨ノ通報ニ接シタルニ依リ兩當事國ノ同意ヲ得タル上規約ニ定
メラレタル總會ノ報告準備期間タル六ヶ月ノ期間ヲ必要ナル範圍内

675 | 0676

ニ於テ延期スルコトニ決定シタ

六月二十四日附支那及日本代表宛書翰ヲ以テ總會ノ議長ハ規約ニ定
メラレタル期限ノ延長ヲ申出テ左ノ如ク述ブル所ガアツタ

「……私ハ兩當事國ガ理事會ニ於テ舉體ヲ擴大ヤザル旨ヲ約定シ
ソレヲ理事會ガ一九三一年九月三十日及十二月十日ノ決議中ニ記
録シタ事實ヲ充分ニ信賴スルト附言スルハ私ノ義務ナリト信ズル
シカシテ右兩決議案中ニハ日支兩國ハ事態悪化ヲ防止スル爲ニ萬
全ノ努力ヲ拂フヘキ旨ガ記載セラレテアル私ハ六ヶ月ノ延長期間
内ニ於テ右決議ガ引續キ完全ニ效力アリトスル私ノ意見ニ對シ貴
代表ハ同意セラルベキコトヲ信ズル、更ニ私ハ三月十一日總會ガ
採擇シタル決議即チ理事會ノ右兩決議ヲ引用スル決議ニツキ貴代
表ノ注意ヲ促シ度シ」

676 | 0677

朝鮮總督府

期間延長採擇後議長ハ上記書翰中ノ文句ニ言及シ且左ノ專柄ヲ附言シタ

「斯ノ如キ事情ニ鑑ミ總會ガナシタ決定ニヨツテ私ハ兩當事國ハ調査委員會ノ畢業又ハ聯盟ガ紛争解決ノ目的ヲ以テ爲スベキ努力ノ不成功ナラシムルガ如キ如何ナル行動ヲモ差控ユベキモノナリト宣言スル權限ヲ有スルモノデアアル

予ハ三月十一日ノ總會ガ聯盟國ハ聯盟規約及巴里條約ニ違反スル手段ニヨリ濟ラサレタル如何ナル舉動、條約又ハ協定ヲモ承認セザルベキ旨ヲ宣言シタ點ニ付テ貴代表ノ注意ヲ喚起スルモノデアアル」

十一。滿洲國ノ組織、日本ノ滿洲國承認

滿洲國政府ノ組織過程ハ着々進行シ同國政府ハ中央銀行ヲ創立シ

677

0678

朝鮮總督府

稅ヲ擔保トシタル外債ノ元利金償還額ヲ公平ナル割合ヲ以テ引續キ支拂フノ用意アル事ヲ聲明シタ一關稅(關稅收入ヲ擔保トスル外債及賠償金ニ關シ前記ト同様ノ聲明ヲ爲ス一郵便事務取扱ヲ開始シタ滿洲國陸軍ハ顧問トシテ招聘セラレタ日本將校ノ援助ニ依リ創設セラレタ、日本政府ハ一九三二年四月八日附ヲ以テ「日本軍隊ハ目下新政府ノ軍隊ニ對シ友好的精神ヲ以テ秩序及安寧ノ回復及維持ニ必要ナル援助ヲ與ヘツツアル」旨ヲ述べタ

一九三二年十一月十八日附日本政府ノ意見書ニヨレバ滿洲ニ日本軍駐屯スルコトニヨリ「主要匪賊部隊ハ二年乃至三年以内ニ掃蕩サルベシ」トノ事デアアル
日本及新國家間ノ關係ハ武藏大將ガ滿洲國首都長春ニ派遣セラレシ後明確ニナツタガ同大將ハ滿洲ニ於ケル領事、關東廳及全日本軍ノ

678

0679



統制ノ爲八月八日關東軍司令官兼特命全權大使、關東廳長官ニ任命セラレタ、新大使ハ信任狀ヲ携帶スルコトナク其ノ任命ハ日本ノ一方的ノ行爲デアル

九月十五日武藤大將ハ滿洲國國務總理ト共ニ次ノ諸項ヲ記載スル議定書ニ署名シタ

「日本國ハ滿洲國ガ其住民ノ自由意志ニヨリ成立シ獨立ノ國家ヲ組織スルニ至リタル事實ヲ承認シタルニ因リ且ツ

滿洲國ハ中華民國ノ有スル凡ナノ國際協定ニ付キ滿洲國ニ適用サレ得ル限り之ヲ尊重スル意志アルコトヲ表明シタルニ因リ、日本國政府及滿洲國政府ハ日滿兩國ノ永久的善隣ノ關係ヲ鞏固ニスル目的ヲ以テ互ニ其領土權ヲ尊重シ東洋ノ平和ヲ確保ヤン爲ニ左ノ如ク協定

679 0680

ヲナス

(一) 滿洲國ハ將來日滿兩國間ニ本協定ト相反シタル協定ヲ締結セザル限リ滿洲國領域内ニ於テ日本國又ハ日本國臣民ガ有スル從來ノ日支間ノ條約、協定其他ノ協定乃至公私ノ契約ニ依リ有スル一切ノ權利、利益ヲ確保シ尊重スルコト

(二) 日本國及滿洲國ハ締約國ノ一方ノ領土及治安ニ對スル一切ノ脅威ハ同時ニ締約國ノ他方ノ安寧及存在ニ對スル脅威タルノ事實ヲ認メ兩國共同シテ國家ノ防衛ニ當ルベキコトヲ約ス
之ガ爲必要ナル日本國軍隊ノ滿洲國內ニ駐屯スルモノトス
本議定書ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ發生ス

滿洲國ハ斯クシテ正式ニ日本ノ承認スル所トナツタ

680 0681

支那政府ハ右承認ニ對シ抗議ヲナシ
 「日本ハ朝鮮ニ於ケル政策ノ前例ニ倣ヒ併合ノ第一歩トシテ滿洲ヲ
 事實上ノ保護國トナシタ」ト主張シタ
 十二、理事會ニ於ケル調査委員會報告書ノ審議
 調査委員會報告書ハ北京ニ於テ一九三二年九月四日署名サレ且十月
 一日兩政府及聯盟各國ニ通達セラレタ、日本政府ハ右報告書ニ對ス
 ル其意見書ヲ理事會ニ提出スル爲最少期間六週間ノ裕餘ヲ求メ理事
 會ハ九月二十四日報告書ノ審議ヲ遅クトモ十一月二十一日ニ開始ス
 ルコトニ決定シタ。
 右ニ際シ理事會議長アイルランド自由國代表「ド、ヴァレラ」氏ハ
 日本ガ委員會報告書ノ公表セラレザル内ニ滿洲國政府トシテ知ラレ
 タル政府ヲ承認シタノミナラズ又同國政府トシテ條約締結ニ依リ紛争

ノ解決ヲ阻害スルノ意志ニ出テタリト看做ス外ナキ措置ヲ執リタル
 事ハ誠ニ遺憾ナリト云ツタ。
 「ド、ヴァレラ」氏ハ「殆ド一ヶ年ノ近キニ互リ理事會ハ其ノ團體
 的資格ニ於テ又理事會ヲ構成スル各國政府ハ各個別的ニ本重大紛争
 ノ真相ニ關シ如何ナル批判ヲモロニヤザル慎重ノ態度ヲトリタルガ
 其ノ理由ハ紛争ヲ其各方面ニ互リ調査スル爲委員會ガ構成セラレ該
 委員會ハ報告書ヲ提出シ且其報告書ガ聯盟ノ機關ニ依リ審議セラルル
 ル迄ハ金問題ハ未決ノモノト看做サルベキモノデアツタガ爲デアル」
 ト述ベタ
 理事會ハ一九三二年十一月二十一日ヨリ二十八日ニ互リ開催セラレ
 タ會合ニ於テ委員會ハ其報告書及當事國ノ意見書ヲ審議シタ。
 リットン卿ハ調査委員會ヲ代表シ議長ノ質問ニ答ヘテ委員會ハ其報

告書ニ對シ何等追加スルノ意志ナキ旨ヲ述ベタ。

右報告書ニ含マレタ勸告ニ關シ理事會ハ次ノ如ク述ベテキル即チ支那及日本代表ハ理事會ヲシテ紛争ノ討論ニ當ラシメル協定ヲナシタル事ナク且理事會ヲシテ總會ニ對シ意見又ハ提議ヲ提出セシムルガ如キ協定ヲモナシタルコトナント。

斯ル状態ニ於テ理事會ハ總會ニ對シ單ニ調査委員會ノ報告書、當事國ノ意見書及理事會ノ議事録ヲ附託シタニ過ギナイ

十三、總會ニ於ケル調査委員會報告書ノ討論、解決方法ノ交渉

總會ハ一九三二年十二月六日會合シ一般の討論ヲ行ヒタル後十二月九日左ノ決議案ヲ採擇シタ。

總會ハ一九三一年十二月十日理事會ノ採擇シタル決議ニヨリ設置セラレタ調査委員會ノ報告書並ニ當事國ノ意見書及一九三二年十一月二十

683 0684

一日ヨリ二十八日ニ至ル理事會議事録ヲ接受シタルニ依リ

一九三二年十二月六日ヨリ九日ニ至ル會合ニ於テ行ハレタ討論ニ據リ一九三二年三月十一日ノ總會決議ニ依リ任命セラレタ特別委員會ニ對シ左ノ事項ヲ要求ス

(一)調査委員會報告書、當事國ノ意見書及如何ナル形式ニ依ルヲ問ハズ總會ニ於テ表明セラレタ意見及提議ヲ審査スルコト

(二)一九三二年二月十九日附理事會決議ニ依リ總會ニ附託セラレタ紛争ノ解決ヲ目的トシテ提案ヲ起草スルコト

(三)至急總會ニ此等ノ提案ヲ提出スルコト

特別十九ヶ國委員會ハ二決議案及一理由書ヲ起草シタガ同委員會ハ之ハ紛争ノ解決ヲ實現スル爲ノ努力ヲ繼續シ得ル様ニ基礎ヲ一般的ニ示スモノデアルト信ジタ

684 0685

右案文ハ左ノ如シ

第一決議案

總會ハ

規約第十五條ノ條文ニ依リ其ノ第一ノ任務ハ紛争解決ヲ有效ナラシムル爲努力スルニ在ルコトデアリ從ツテ目下ノ所紛争ノ事實及之ニ關スル勸告ヲ記載スル報告書ヲ作製スルノ任務ヲ有スルモノニアラザルコトヲ認メ更ニ

一九三二年三月十一日ノ總會決議ニ依リ紛争解決ニ關スル國際聯盟ノ態度ヲ決定サル諸原則ヲ設定シタルコトニ鑑ミ斯ノ如キ紛争解決ニ付テハ國際聯盟規約、巴里條約及九ヶ國條約ノ規定ガ尊重ヤラルベキコトヲ確認シ且紛争解決ノ目的ヲ以テ調査委員會報告書第九章ニ記載セ

朝鮮總督府

685 0686

ラレタル諸原則ヲ基礎トシ且同報告書第十章ニ示サレタル諸提案ヲ考慮シ當舉國ト協力シテ交渉ヲナスノ任務ヲ有スル一委員會ヲ設置スルコトニ決ス

該委員會ヲ構成スル爲特別十九ヶ國委員會ニ代表書ヲ出セル聯盟諸國ヨリ委員ヲ任命ス。

米國及ソヴェート社會主義共和國聯邦ガ交渉ニ参加スルコト望マシキニヨリ兩政府ヲ右諸交渉ニ参加スル様招請スル任務ヲ前記委員會ニ附與シ且、同委員會ニ對シ其ノ使命達成ノ爲必要ト思惟サルル措置ヲトル補限ヲ附與ス

同委員會ニ對シ一九三三年三月一日迄ニ其ノ事業ニ關シ報告スルコトヲ要求ス

同委員會ハ兩當舉國ノ同意ヲ經テ一九三二年七月一日ノ總會決議中ニ

朝鮮總督府

686 0687

示サレタル期間ヲ決定スル權限ヲ有ス、兩當事國ガ右期間ニ付キ同意
 ヤザル場合ハ委員會ハ右報告書ヲ提出スルト同時ニ總會ニ對シ右問題
 ニ付キ提案ヲナスデアラウ

總會ハ其ノ會期ヲ繼續シ又其ノ議長ハ必要ナル場合ハ速カニ之ヲ招集
 スルコトヲ得

第二 決議案

總會ハ

一九三一年十二月十日ノ理事會決議ニ依リ任命サレタル調査委員會ガ
 國際聯盟ニ與ヘラレタル貴重ナル援助ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ且右ノ報
 告書ガ誠意ト公平ヲ旨トシテ作成シタルモノナルコトヲ宣言ス

687 0688

理由書

總會ハ一九三二年十二月九日ノ決議ニ於テ其特別委員會ニ左ノ要求ヲナ
 シタ。

(一) 調査委員會ノ報告書、當事國ノ意見書及如何ナル形式ニ依ルヲ問ハズ
 總會ニ於テ表明サレタ意見及提議ヲ審査スルコト

(二) 一九三二年二月十九日附理事會決議ニヨリ總會ニ附託サレタル紛争ノ
 解決ヲ目的トシテ提案ヲ作成スルコト

(三) 至急之等ノ提案ヲ總會ニ提出スルコト

若シ委員會ガ總會ニ對シ事件ノ狀況及事態全局面ノ認識ヲ提示スル必要
 ガアルナラバ必要ナル一切ノ資料ハ調査委員會報告書ノ第一節ノ八章中
 ニ記載セラレテアル、委員會ノ意見ニヨレバ右報告書ハ主要事實ニ關シ
 中庸ヲ得公平ニシテ且完全ナル記述デアル然レ目下申告ヲナス時期ニ

688 0689

アラズ。總會ハ規約第十五條第三項ニヨリ先ツ妥協手段ニ依リ紛争
 解決達成ニ凡ユル努力ヲナスベク若シ其努力達成シタルトキハ總會ハ
 其適當ト認ムル事實ヲ記載シタル記述ヲ公表スベキデアアル若シ總會ガ
 右努力ニ失敗シタル場合ハ同條第四項ニヨリ紛争ノ事實ノ記述並ニ之
 ニ關スル勸告書ヲ作成スルコトガ總會ノ義務デアアル
 第十五條第三項ニ基ク努力ガ繼續セラルル限り各種事變ニ於テ總會ガ
 負擔シタ責任ニ付テハ總會ハ規約ニ依ツテ特ニ之ガ責任ヲ留保スル事
 ヲ得ルデアアル。依テ特別委員會ハ本日總會ニ提出スル決議案ニ於テ妥
 協ヲ目的トスル提案ヲ爲スニ止メタノデアアル
 特別委員會ハ三月十一日ノ總會決議ニヨリ當事國ノ同意ノ下ニ該紛争
 解決ノ準備ヲナス機命令ヲ受ケタ一方米國及ソビエト社會主義共和
 國聯邦ガ参加シテ日支兩國代表者間ヲ圓滑ナラシムル事方運マシキニ

689 0690

ヨリ右兩國ヲ招聘シテ交渉ニ参加ヤシムベシト提案サレタ
 誤解ヲ避クル爲且又現在ヲ考ヘラレテ居ルコトハ非聯盟國タル兩國ノ協
 カヲ受ケテ妥協ニ依ル紛争解決ノ交渉ヲナスコトデアアルト云フコトヲ明
 ナラシメンカ爲特別委員會ハ此ノ目的ノ下ニ交渉ヲナス責任ヲ有スル新
 委員會ト認メラレ且右資格ニ於テ米國及ソビエト社會主義共和國聯邦
 ニ對シ本會合ニ参加ヤシコトヲ招聘スルノ權限ヲ附與セラルル様右委員
 會ハ提案ス
 交渉委員會ハ其ノ使命達成ノ爲必要ナル一切ノ權限ヲ有シ殊ニ同委員會
 ハ特ニ専門家ヲ招聘シ且適當ト思惟サルル場合ハ一乃至二以上ノ小委員
 會又ハ一名乃至二名以上ノ特ニ之ニ適當シタル者ニ其ノ權限ノ一部ヲ附
 與スルコトヲ得。
 交渉委員會ノ委員ハ法律關係ノ事項ニ就テハ一九三二年三月十一日ノ議

690 0691

會決議第一部及第二部ニ依リ又事實關係ノ事項ニ付テハ調査委員會報告ノ第一部ノ八章ノ記述ニ則ルベキデアリ又解決方法ヲ考慮スルニ當ツテハ委員ハ調査委員會報告書第九章記載ノ諸原則ヲ基礎トシ且右報告書ノ第十章ニ記載セラレタル諸提議ヲ參考トシテ研究スベキデア

ル

之ニ關聯シ十九ヶ國委員會ハ該紛争ノ特殊ナル事情ノ下ニ於テ一九三一年九月以前ノ狀態ヘノ單ナル復歸ハ永久的解決方法ヲ確立スルモノトシテハ十分ナラズ又滿洲ニ於ケル現在ノ制度ノ維持及承認モ充分ナル解決方法トハ思惟サレ得ナイト考ヘルノデアアル

十二月十五日前記ニ決議案及理由書ガ當學國ニ提示サレタ。支那及日本ノ代表ハ修正案ヲ提出シ委員會議長及事務局長ハ兩國代表部ト商議ヲ開始スル權限ヲ附與セラレタ、十二月二十日委員會ハ右商議ヲ繼續

691 0692

ヤンガ爲最大限度一九三三年一月十六日迄休會スルコトニ決定シタ。

十四、萬里ノ長城内山海關ニ於ケル日本ノ軍事行動

一九三三年一月ノ初旬山海關ニ於テ重大事件ガ勃發シタ。

山海關ハ北平滄天ノ中間ナル長城ノ終端ニ位シ常ニ軍事的ニ重要性ヲ有スル土地ト認メラレテ來タ、同市ハ滿洲ヨリ現在ノ河北省ヘノ侵入者ガ常ニ通過スル通路ニ當ツテ居ル加之日本ガ滿洲國ノ一部ト認ムル熱河省ヨリ河北ヨリ最モ容易ニ入り得ル通路デアアル、日本側ノ通報ニ依レバ張學良元帥ハ河北ノ北部ヨリ大部隊ヲ熱河ニ輸送シツツアツタトノコトデアアルガ又支那側ノ通報ニヨレバ日本軍ハ熱河ニ向ケ大々的軍事行動ヲ開始ヤントシツツアツタトノコトデアアル

一九三二年十二月二十九日附ノ日本側通報ニヨレバ過去數日間ニ互

リ支那軍ハ續々熱河ニ向ケテ動員サレツツアリトノコト更ニ一九三

692 (0693

三年一月四日日本代表部ハ在北平日本官憲ガ此ノ軍隊移動ノ停止方ニ付張將軍ヲ慰得ヤント努力シタカモ望シカリシコト而シテ斯ル一緊張シ且不安ナル状態ニ於テ一月一日夜陰ヨリ二日ニ亙リ山海關ノ要變ガ勃發シタコトヲ陳述シタ

日本關東軍ノ一部隊ガ長城ヲ通過シ同市ヲ攻撃シ一月三日之ヲ占領シタ

支那政府ハ右軍舉行動中ニ無事ノ民ガ殺戮マラレタルコトヲ主張シ一月十一日一九〇一年ノ議定書署名各國ニ對シ日本ガ同議定書ニ依ツテ與ヘラレタ特殊ノ權限ヲ不法ニ利用シタルコトヲ抗議シタル文書ヲ交付シタ、支那政府ハ更ニ同抗議書ニ於テ支那ノ防禦軍ガ日本軍ノ侵略的行動ニ對抗ノ爲正當ナル權利ヲ行使スルコトニ依ツテ生ジタル事態ニ付テハ何等責任ヲ負ハスト聲明シタ

十五、解決方法交渉手續ノ失敗

十九ヶ國委員會ハ一九三三年一月十六日再開シ同委員會作成ノ決議案及理由書ニ關スル當事國代表トノ商議ハ引續キ行ハレタガ支那及日本代表ガ十二月ニ提出シタ修正案以外ニ同委員會ハ何等ノ新提案ヲ接受シタルコトナク只日本代表部ハ其本國政府ト新提案ニ關シ問合ヤ中ナルヲ以テ右案ハ四十八時間以内ニ提出ヤラルルヲ待ベント述ベタ

委員會ハ右提案ヲ一月十八日ニ接受シタ右提案ハ十二月十五日同委員會ガ當事國ニ通報ヤシモノトハ根本的ニ相違シテ層々コトヲ知ツタ然シ日本代表部ハ本國政府ノ新案提出ニ際シ紛争ノ解決ノ爲任命ヤラルベキ團體ハ聯盟加盟國ニ限ルベシトノ規定ニ重キヲ置ク旨ヲ特ニ強調シタガ十九ヶ國委員會ハ若シ之ガ同委員會ノ通報シタル案

文ニ對スル日本ノ唯一ノ異議デアルトスレバ當專國ト協議ノ上問題ヲ解決スルコトハ不可能デハナイト考ヘタ故ニ同委員會ハ若シ右ノ困難トスル點ガ解決セラレラバ日本ハ十二月十五日ノ第一決議案ヲ受諾スルノ用意アリヤ否ヤノ點ニツキ特ニ補足的通告ヲナサンコトヲ求メタ、委員會ハ支那代表部ト商議スル以前ニ此ノ點ニ關スル日本ノ回答ヲ待ツベシトシタガ支那代表部ノ案ハ兩當專國ニ通報セラレタ案文ニ對シ日本案ノ如ク根本的ニ相違シ居ラナカッタ。

一月二十一日委員會ハ日本代表方同委員會議長及事務總長ニ對シ爲シタ陳述ノ内容ハ非聯盟國ニ對シ解決方法商議ニ參加方ヲ要請スベキ條項ヲ第一決議案中ヨリ削除シテモ日本政府ハ其ノ案ヲ受諾スルノ用意ナキ旨ヲ述ベタ

日本代表部ハ此等ノ陳述ヲ爲スニ當リ同國政府ヲ代表シ新提案ヲ提

695 0696

朝鮮總督府

出シタ

委員會ハ此等ノ提案ヲ十二月十五日ノ委員會案ニ對シ支那代表部カ提出シタ修正案ト共ニ審査シタ結果兩當專國カ受諾シ得ル様ナ決議案ヲ作成スルコトハ不可能デアルト認メ得ザルヲ得ナカッタ。

若シ委員會カ第一決議案ノ他ノ條項ヲ日本ノ要求ニ基キ修正スル必要アリトシテモ支那代表部及委員會自体カ米國及ソヴエート社會主義共和國聯邦ノ解決交渉參加方ヲ重要視シタル結果日本ノ要求ニヨリ此等兩國ノ招請ニ關スル條項ヲ削除スルコトハ不可能トナルニ至ツタ

更ニ委員會ハ假リニ該理由書ヲソノマ、變更シテ委員會ノ代表者トシテノ議長カ爲ストコロノ宣言書ニシタトシテモ且又兩當專國カ之ニ對シ保留スル自由アリトシテモ日本政府ハ十二月十五日委員會カ

696 0697

朝鮮總督府

作成シタ案文ヲ受諾ヤズ却テ委員會カ受諾シ得ザル重大ナル修正ヲ
 加ヘンコトヲ新提案中ニ要求シタ次第ヲ述ベタ
 右ノ事情ニ鑑ミ十九ヶ國委員會ハ其ノ委託セラレタ使命ニ從ヒ當
 國ノ同意ヲ得テ紛争解決ノ準備ニ努力シタカ右趣旨ノ提案ヲ總會ニ
 提出スルコトハ不可能ナル様ニ思ハレタ
 此ノ故ニ委員會ハ一九三二年三月十一日ノ決議第三部（第五項）ニ
 依リ委託セラレタ任務ノ遂行ニ當リ規約第十五條第四項ノ規定ニ
 リ本報告書案ヲ起草シタ
 本報告書案ノ起草ヲ開始スルニ當リ委員會ハ交渉失敗セバ總會ノマ
 カ第十五條第四項ノ規定ヲ適用スル權限アル旨ヲ指摘シタ故ニ委員
 會ハ當國カ委員會ニ對シ通報ヤント欲スル新ナル提案ニ對シテハ
 之カ提出スルヤ否ヤヲ當國ノ自由意志ニ委シタ

朝鮮總督府

697 0698

二月八日日本代表ハ十二月十五日作成サレタ案文ニ對シ更ニ修正ヲ
 委員會ニ提議シタ、二月九日委員會ハ此等ノ修正ヲ審議シタル後之
 ニ關シ特ニ日本政府ハ滿洲ニ於テ支那ノ主權及行政的保全ト兩立ス
 ル廣汎ナル自治ヲ確立スルコトニ關シ調査委員會報告書第九章中ノ
 第七原則ヲ妥協ノ案基礎ノ一トシテ受諾スルヤ否ヤノ點ニ付更ニ説
 明ヲ求ムルコトカ望マシキコトト考ヘタ
 右質問ハ同日附ノ書翰ヲ以テ日本代表部ニ送附セラレタ
 日本政府ハ二月十四日附ヲ以テ滿洲國獨立ノ維持及承認ハ極東平和
 確立ニ對スル唯一ノ保證デアツテ又之ノ根據ニ基キ日支間ノ問題ハ
 解決サルベキモノト確信スル旨ヲ回答シタ
 右通報ニ對スル回答トシテ委員會ハ二月八日提出サレタ日本ノ提案
 ハ妥協ト云フ點ヨリ見レバ望マシキモノニアラズトシ深甚ノ遺憾ノ

朝鮮總督府

698 0699

意ヲ表シタ尙委員會ハ總會ノ最終會合ノ日ニ至ル迄ノ日本政府カ提出スベキ如何ナル提案モ之ヲ喜ンデ審議シ且妥協ノ爲ノ努力カ失敗ニ終ラズトモ現在ノ事態ノ悪化ハソノ努力ヲ益々困難ニ陥ラシムルニ至ルモノナルコトヲ日本代表ハ實感スルチアラウト附言シタ同日委員會ハ本報告案ヲ採擇シタ

第三章 紛争ノ主タル特異性

以上ノ點ヨリ理事會又ハ總會カ日支紛争ノ解決方法ヲ發見ヤンカ爲十
六ヶ月以上ノ日子ヲ費シ絶エズ努力シタコトカ解ルチアラウ
聯盟規約ノ諸條項及其他ノ國際協定ヲ基礎トシテ幾多ノ決議カ採擇セラレタ既ニ述ベラレタルカ如キ事件ハ歴史的背景アル故ヲ以テ事情複雑セルコト及ビ後ニ述ベルカ如ク日本カ支那領土内ニ於テ版況ナル權

朝鮮總督府

699 0700

利ヲ行使スルニ至ツタ滿洲ノ特殊ナル法律的地位並ニ滿洲ノ或部分ニ於テ支那及日本ノ官憲間ニ機微ナル關係カ存在シタコト等ニ依リ聯盟ノ交渉及調査ノ努力カ延期サレタノハ當然且必要ナコトデアツタ
然ルニ當舉國ノ聲明ニ基キ且其ノ參加國ト共ニ採擇シタ決議ニ基キ理事會及總會カ優イナ居タ事態改善ニ關スル希望ハ消滅シタ之ニ反シ事態益々悪化ノ兆候ヲ示シタ、滿洲或ハ聯盟國(支那)ノ領域ノ他ノ部分ニ於テ調査委員會ノ報告書カ「援面ノ戰爭」ト稱シタ軍事行動カ今迄繼續ヤラレ且現ニ繼續ヤラレツツアルノデアアル
總會ハ紛争ノ主タル原因ヲ考慮シ特ニ次ノ結論ニ到達スルト共ニ次ノ事實ヲ認メタ

- (一) 總會ニ附託ヤラレタ日支紛争事件ハ支那及諸外國カ支那ノ主權下ニ在リ常ニ支那ノ一部トシテ認メラレテ居タ滿洲ニ於テ發生シタ

朝鮮總督府

700 0701

ノデアアル日本政府ハ調査委員報告書ニ對スル其ノ意見書中ニ於
 ナ「南滿洲鐵道附屬地トシテ知ラルル極メテ狹隘ナル地域ニ於テ」
 露西亞カ獲得シ次イテ日本カ繼承シテ諸權利ハ支那ノ主權ト低價
 スルモノナリトノ議論ヲ論駁シ「寧ロ反對ニ此等ノ權利ハ支那ノ
 主權ヨリ獲得セラレタルモノナリ」トシテ居ルノデアアル
 支那ヨリ露西亞ニ附與シ更ニ日本ニ許與サレタ權利ハ事實支那ノ
 主權ヨリ獲得セラレタルモノデアアル一九〇五年ノ北京條約ニ於テ
 ロシアカ「ポーツマス」條約ニ依リ日本ニ對シテ爲シタ「凡テ讓
 渡ヲ清國政府ハ承認シタ」一九一五年日本ハ支那ニ對シテ滿洲ニ於
 ケル其ノ權利擴張ノ爲要求ヲ提出シタカ其ノ要求ノ結果一九一五
 年五月二十五日中華民國政府ハ日本ト南滿洲及東部内蒙古ニ關ス
 ル條約ヲ締結シタ

朝鮮總督府

701 0702

「ワシントン」會議ニ於テ一九二二年二月二日日本代表部ハ日本
 カ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル或優先權ヲ放棄スル旨ヲ聲明シ且
 此ノ決定ヲ爲スニ當リ日本ハ常ニ支那ノ主權及機會均等ノ原則ヲ
 尊重シ公正且寛大ナル精神ニ基イテ之ヲナシタルモノナリト説明
 シタ。ワシントン會議ニ於テ締結サレタ九ヶ國條約ハ支那總テノ
 他ノ部分ト同様ニ滿洲ニモ適用サレル最後ニハ今回ノ紛争勃發ノ
 當初ニ於テ日本ハ滿洲カ支那ノ一部ニ非ストハ主張シナカツタノ
 デアル

(二) 過去ノ經驗ニ依レバ滿洲ノ支配者ハ支那ノ他ノ部分少クトモ北支
 那ニ關シ著シキ勢力ヲ振ツテ居リ且各種軍事上及政治上明白ニ有利
 ナル地位ヲ占メテ居ル此等ノ諸省ヲ支那ノ他ノ部分ヨリ分離スルコ
 トハ平和ヲ危殆ナラシムル重大ナ「イリデンテイスト」問題ヲ惹起

朝鮮總督府

702 0703

朝鮮總督府

スルコト明白デアル（註イリデンテイストトハ舊伊國領土回復主義者ヲ言フ）

（三）總會ハ之等ノ事實ヲ記述スルニ當リ滿洲ニ行ハレ居ル自治ノ傳統ヲ無視スルモノデハナイ此ノ傳統ハ或ル極端ナル場合及支那中央政府ノ特ニ軟弱ナリシ時ニ行ハレル事カ出來タ。一例ヲ示セバ張作霖元帥ハ其ノ全權代表者ヲ派シ中華民國東三省自治政府ノ名ニ於テ「ソヴエート」社會主義共和國聯邦ト東支鐵道ノ航行國境ノ分界等ニ關スル一九二四年九月二十日ノ協定ヲ締結スルコトカ出來タノデアアル然シ同協定ノ條項ヨリ見レバ東三省自治政府（自ラ支那ヨリ獨立シタル一國家ノ政府ト認メタモノデナク東三省ニ於ケル支那ノ利益ニ影響ヲ及ボスベキ問題ニ關シ中央政府ハ既ニ數數月前右聯邦ト協定ヲ締結シタカ此等ノ問題ニ付テハ同自治政府自

703 0704

朝鮮總督府

ラ「ソヴエート」社會主義共和國聯邦ト交渉シタルモノト信ジタコトハ明白デアル

滿洲ハ自治ハ最初張作霖元帥次ニ張學良元帥カ民政及軍政雙方ノ首領デアリ且自己ノ軍隊及自己ノ官吏ヲ通ジテ東三省ニ於テ實質的權力ヲ行使シタ事實ニ依ツテモ明白ナル所デアアル
張作霖元帥カ數回宣言シタ獨立ハ彼又ハ滿洲ノ人民カ支那ト分離スルコトヲ希望シタ意味デハナイ。彼ノ軍隊ハ支那ヲ恰モ外國ナルカ如ク見テ之ヲ侵略シタノデナク只單ニ内亂ノ參加者トシテ侵略シタニ過ギナイ、滿洲ハ一切ノ戰爭及「獨立」ノ期間ヲ通ジテ終始支那ノ一部デアツタ更ニ一九二八年以來張學良元帥ハ支那國民政府ノ權力ヲ承認シテ居タ。

一九三一年九月迄ノ二十五年ノ間ニ於テ滿洲ヲ支那ノ他ノ部分ニ

704 0705

結ビツケタ、政治的及經濟的結合ハ益々鞏固トナツタカ又同時ニ日本ノ滿洲ニ於ケル利益ノ發展モ繼續サレタノデアアル、滿洲ヲ構成シタ「東三省」ハ中華民國ノ統治下ニ於テ他ノ諸省ヨリノ支那人移民ノ爲ニ廣ク開放サレ此等ノ支那移民ハ土地ヲ所有スルコトニヨリ滿洲ヲシテ多クノ點ニ於テ長城以北ニ於ケル支那ノ單ナル延長ト成シタノデアアル約三千萬ノ住民ノ中支那人又ハ之ニ同化シタ滿洲人ハ二千人住民及支那ノ權益ハ滿洲ノ經濟的資源ノ開發及組織ニ關シ從前ニ比シ遙ニ重大ナル役割ヲ演ジタノデアアル

他ノ一方ニ於テ日本ハ滿洲ニ於テ支那ノ主權ノ行使ヲ極度ニ制限セントスル權利ヲ獲得又ハ要求シタ

日本ハ關東租借地ヲ支配シ關東州總主權ヲ行使シ南滿洲鐵道會社ヲ

705 0706

介シテ數箇ノ都市並ニ奉天及長春ノ如キ人口稠密重要都市ヲ包含スル鐵道附屬地ノ行政ニ當ツタ、之等ノ地域ニ於テ日本ハ警察、徵稅、教育及公共事業ヲ管掌シタ、日本ハ或ル部分ニ軍隊ヲ駐屯ヤシメ即チ租借地ニハ關東軍又鐵道附屬地ニハ守備隊並ニ各地方ニ領事館警察ヲ配置シタ。斯ノ如キ事態ハ當事國雙方ニ依リ自由ニ希望サレ若ハ受諾セラレ且緊密ナル經濟的及政治的協力政策カ十分理解セラレテナサレタモノトスレバ紛糾ヲ醸スルコトナク繼續サレタデアラウカスル條件ヲ缺ク以上ハ相互間ノ誤解及衝突ヲ惹起スルノ外ナカツタノデアアル。

雙方ノ權利ノ存在スルコト、時トシテハ法律的關係ノ不明確ナルコト及日本カ有スル滿洲ニ於ケル特殊地位ノ觀念ト支那ノ國權回復ノ要求カ對相對立シナルト云フコト之等幾多ノ事變及紛爭ヲ惹起ヤシムル遠因トナツタノデアアル

706 0707

(四) 一九三一年九月十八日以前ハ滿洲ニ於テ兩當事國ノ一方ハ他方ニ對シ合法的ナ不滿ヲ有シテ居タ、日本ハ或ル問題トナリ勝テナ權利ヲ利用シ支那官憲ハソノ日本ノ權利行使ニ對シ防首ヲ加ヘタ。

九月十八日ノ事件直前ニ於テ兩當事國間ノ諸案件ヲ正規ノ外交交渉及平和手段ニヨツテ解決セントノ努力カナサレタ其ノ解決ノ手段ハ未ダ其ノ總テヲ盡シタモノト云ヘレナカツタカ之ニ不拘滿洲ニ於ケル日支人間ノ感情カ漸次尖鋭化シ日本内ノ輿論ノ動キハ必要ノ際ハ武力ニヨツテ諸懸案ヲ解決スベシトナスニ至ツタ

(五) 支那ハ現在國家的改遣ノ時代ニアリ中央政府ノ努力及ビ既ニ達成セラレタ相當ノ進歩ニ拘ラス現在ノ如キ狀態ニ於テハ政治的ノ擾亂、社會的混亂及分裂的傾向ヲ生ズルハ必然ノコトデアアル

支那ハ國際協力政策ヲ必要トシ其ノ政策ノ一ハ國際聯盟カ支那ニ對

707 0708

シテ支那政府カ其ノ國民ヲシテ支那國家ノ改遣及安定ヲ達成セシメル爲ニ必要ナル諸制度ヲ近代化スル爲ニ引續キ技術上ノ援助ヲ與フルコトニアル、

華府會議ニ於テ認メラレ未ダニ效力ヲ有スル國際協力政策ヲ充分ニ適用スルコトハ主トシテ支那ニ於テ行ハレタル激烈ナル排外宣傳ニヨツテ延期サレテ來タ、右排外宣傳ハ經濟的「ボイコット」ト學校ニ於ケル排外教育ヲ此ノ宣傳ハ遂ニ現在ノ紛争發生ノ空氣ヲ醸成スルニ至ツタ

(七) 或事件ニ對スル支那人ノ憤懣ヲ示シ又ハ或種ノ要求ヲ支援スル爲ニナサレタ一九三一年九月十八日ノ事件ニ先ダツ支那人ノ「ボイコット」ハ既ニ緊張セル事態ヲ一層險惡ナラシメタ、一九三一年ノ事件ニ引續キ支那ノボイコット行使ハ復舊行動トモ稱スベキモノデアアル

708 0709

ニ展開サレタ日本ノ軍事行動モ自衛ノ措置ト認ムルコトハ出来
 ナイノミナラズ自衛ノ措置ヲ執ル國ト雖規約第十二條ノ規定ニ
 從フベキモノデアアル

(十) 一九三一年九月十八日以來ノ日本軍當局ノ行政上及軍事上ノ活
 動ハ特ニ政治的考慮ヲ以テ爲サレタモノト認メラレル

東三省ノ漸進的ナ軍事占領ハ順次滿洲ニ於ケル主要都市ヲ支
 那官憲ノ手ヨリ奪ヒ取り各占領後ニハ常ニ行政カ改革セラレタ
 日本文官及武官ハ十八日ノ事件後ノ滿洲ノ事態解決策トシテ滿
 洲獨立運動ヲ組織シ且遂行シ此ノ目的ノ爲ニ或支那人ノ姓名及
 行動ヲ利用シ支那舊政權ニ對シ不平ヲ醸ク或ル少數者及土着ノ
 團體ヲ利用シタノデアアル。

日本參謀本部ノ援助及指導ヲ得タ此ノ運動ハ日本軍隊ノ存在ニ

710 0711

朝鮮總督府

(八) 紛争解決ニ關スル國際聯盟規約ノ目的ハ國家間ノ緊張カ不可避的
 ニ國交斷絶ニ至ルカ如キヲ防止スルコトニアアル調査委員會ハ支那
 及日本間ノ紛争カ何レモ仲裁裁判ニヨツテ解決サレ得ベキモノナ
 ルコトカ解ツタ、此等ノ紛争カ錯綜シテ兩國間ノ關係ハ極度ニ緊
 張シタルニヨリ被害國ハ外交交渉カ不當ニ延引サレタル際ハ之ヲ
 國際聯盟ニ訴ヘル義務ヲ感ジタノデアアル

規約第十二條ハ紛争ノ平和的解決ニ關スル正式ノ程序ヲモ包含シ
 テ居ル

(九) 一九三一年九月十八日夜ヨリ十九日ニ互ツテ現地ニ於ケル日本軍
 ハ自衛ノ行動ヲトリツツアツタ目ヲ信ジタカモシレヌカ其ノ可
 能性ヲ認メテモ總會ハ同夜寒天及其ノ他ノ滿洲各地ニ於テ執ツタ
 日本ノ軍事行動ヲ自衛ノ措置ト認ムルコトハ出来ナイ又右事件中

709 0710

朝鮮總督府

依ツテノミ達成セラルルコトガ出来從ツテ自然的ナ又純眞ナ獨立運動トハ認メラルルコトハ出来ナイ

(出)前項ニ述ベラレタ運動ノ結果滿洲國ノ政府内ニ於ケル主要ナル政治的及行政的權力ハ事實上行政ヲ指揮支配シ得ル日本人官吏及顧問ノ掌中ニ收メラレ既ニ記述シタルカ如ク滿洲住民ノ大部分ヲ占ムル支那人ハ右政府ヲ支持ヤス之ヲ以テ日本側ノ手先ト認メテ居ル又調査委員會カ其ノ報告書ヲ完結シタル後且理事會及總會カ右報告書ヲ審議スル以前ニ於テ滿洲國カ日本ニ依リ承認サレタコトハ注意ヲ要スル、滿洲國ハ如何ナル他ノ國ノ承認ヲ受ケ居ラス特ニ聯盟國ハ斯ノ如キ承認ハ一九三二年三月十一日ノ決議ノ精神ト兩立シ得ザルモノト意見ヲ有シテ居ル。

一九三一年九月十八日ノ事件ヲ誘發シテ滿洲國ハ特殊ナル性質ヲ

711 0712

有シテ居ル、右ハ日本ノ軍事行動ノ進展、滿洲國政府ノ創立及日本ノ同政府承認等ニ依ツテ引續キ擴大サレタ、疑モナク今回ノ事件ハ一國カ國際聯盟規約ノ定ムル調停ノ機會ヲ豫メ利用シ盡スコトナクシテ他ノ一國ニ宣戰シタ事件ト異リ且又一國カ其隣接國ノ軍隊ニヨツテ侵略セラレタカ如キ簡單ナル事件トモ異ル、何トナレバ滿洲ニ於テハ前述ノ如ク世界ニ比類ナキ幾多ノ特殊事情カ存在スルカラデアル。

然シ支那領土ノ廣汎ナル地域カ宣戰布告ナクシテ實力ヲ以テ日本軍ニ依ツテ奪取セラレ且滿洲ハ支那ノ他ノ部分ヨリ分離セラレ獨立ヲ宣言シタコト、是等ハ議論ノ餘地ナキ所デアル

理事會ハ一九三一年九月三十日ノ決議ニ於テ日本政府ハ日本臣民ノ生命財産ノ安全ノ有效ニ確保サルルニ從ツテ既ニ開始セラ

712 0713

レタ其ノ軍隊ノ鐵道附屬地内ヘノ撤退ヲ能フ限リ速カニ續行ス
 ベキ旨及此ノ意ヲ迅速完全ニ遂行スル希望ヲ有スル旨ノ日本
 代表ノ聲明ヲ受ケテ更ニ理事會ハ一九三二年十二月十日ノ決議
 ニ於テ九月三十日ノ決議ヲ確認シ兩當事國カ此ノ上事態ヲ惡化
 スルコトヲ避クルニ必要ナ凡有措置ヲ執ル事且此ノ上戰國若ハ
 人命ノ喪失ヲ惹起スルカ如キ凡有行爲ヲ差控ユルコトノ兩當事
 國ノ約定ヲ再ヒ承認シタ

此ノ事件ニ關聯シ規約第十條ニ依リ聯盟國ハ總テノ聯盟國ノ領
 土保全及現在ノ政治的獨立ノ尊重ヲ約シ居ルコトヲ指稱スベキ
 テアル。

最後ニ規約第十二條ニ依リ聯盟國ハ若シ國交斷絶ニ至ルノ虞レ
 アル紛争發生スルトキハ之ヲ仲裁裁判若ハ司法的解決又ハ理事

713 0714

會ノ審査ニ付スコトヲ約ス。

一九三一年九月十八日以前ニ存在シタ險惡ナル狀態ノ發生ノ原
 因ニ關シテハ當事國ノ雙方幾分ノ責任アリシ如キモ一九三一年
 九月十八日以後ノ諸事件ノ發展ニ關シテハ毫モ支那ノ責任問組
 ハ起リ得ナイ。

第四章 勸告ノ記述

本章ハ總會カ紛争ニ付公正且適當ト認ムル勸告ヲ記述ス、

第一節

總會ノ勸告ハ本事件ノ極メテ特殊ナル事情ヲ考慮シ且次ノ原則條件及
 考案ヲ基礎トス

A、紛争ノ解決ニ際シテ國際聯盟規約、パリ條約及華府九ヶ國條約ノ

714 0715

モノト認メタ

(一) 嚴重ナル條約尊重ノ原則

(二) 一切ノ聯盟國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトノ聯盟國カ爲シタル約定

(三) 聯盟國間ニ發生スル紛争ハ之ヲ平和的解決方法ニ依ラシムル義務アリ

總會ハ理事會議長ガ一九三一年十二月十日ノ聲明書ニ定メタル諸原則ヲ採擇シ十二ヶ國理事ガ一九三二年二月十六日日本政府ニ對シ要請中ニ再ビ右諸原則ヲ引用シ規約第十條ヲ無視シテ行ハレタル聯盟國ノ領土保全ノ侵害及其ノ政治的獨立ノ變革ハ聯盟國ニヨリ有效且實效的ト認メラルルコトヲ得ザル旨ヲ宣言シタ

總會ハ聯盟國間ノ國際的關係及紛争ノ平和的解決ヲ規定スル右原則

716 0717

朝鮮總督府

條項ヲ遵守スルコト

聯盟規約第十條ニ依レバ聯盟國ハ聯盟加盟各國ノ領土保全及其ノ政治的獨立ヲ尊重シ外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコト規定シアリ

巴里條約第十一條ニヨレバ「締結國ハ相互間ニ起ル一切ノ紛争又ハ紛擾ハ其ノ性質又ハ原因ノ如何ヲ問ハズ平和的手段ニヨルノ外之カ處理又ハ解決ヲ求メザルコトヲ約ス」トアリ

華府九ヶ國條約第一條ニハ「支那國以外ノ締結國ハ支那ノ主權、獨立並ニ領土の行政的保全ヲ尊重スルコトヲ約ス」ト規定シテ居ル

B、紛争ノ解決ハ一九三二年三月十一日總會決議ノ第一及第二部ノ規定ヲ尊重スルコト

本報告書ニ既ニ引用シタル右決議ノ中ニ於テ總會ハ規約ノ規定カ今回ノ紛争ニ全部適用セラルベキモノニシテ特ニ次ノ諸點ニ關シ然ル

715 0716

朝鮮總督府

朝鮮總督府

ハ巴里條約ト全然調和スルモノナリトノ其ノ意見ヲ述ベタ、總會ニ
 附託セラレタ紛争解決ノ爲總會カ終局ニ於テ執ルベキ措置ノ保留期
 間ハ總會ハ前記ノ諸原則及規定ノ拘束性アルコトヲ明カニシ且聯盟
 國ハ聯盟規約又ハ巴里條約ニ反スル手段ニヨリテ齊ラサレタル如何
 ナル事態、條約又ハ協定ヲモ承認セザルコトカ各聯盟國ノ義務ナル
 旨ヲ宣言シタ

最後ニ總會ハ日支紛争ノ解決カ當事國ノ一方ノ武力的壓迫ニヨツテ
 ナサルルコトハ規約ノ精神ニ反スルモノナルコトヲ主張シ且一九三
 一年九月三十日及同年十二月十日當兩國ノ同意ヲ得テ理事會ニ依ツ
 テ採擇セラレタル決議ヲ想起セリ

C、日支間ニ前記國際協約尊重ヲ基礎トスル水久的諒解カ確立セラ
 ル爲ニハ紛争ノ解決ハ調査委員會ノ定メタル次ノ諸原則及諸條件ニ

朝鮮總督府

則ルベキコト

一、支那及日本雙方ノ利益ト兩立スベキコト

兩國ハ聯盟國ニシテ共ニ國際聯盟ヨリ同一ノ待遇ヲ受ケル權利ヲ

有ス、兩國共ニ公平ニ利益ヲ受ケザルカ如キ解決ハ平和ノ爲ニ俾

益スル所ナシ

二、ソヴェート社會主義共和國聯邦ノ利益ニ對スル考慮

聯邦ニケ國際間ニ於テ第三國ノ利益ヲ尊重スルコトナクシテ平和ヲ

購ズルコトハ公正若ハ賢明ナル策ニアラス又平和ニ貢獻スルコト

モナシ

三、現在ノ多邊的條約トノ合致

如何ナル解決モ國際聯盟規約、巴里條約及華府九ヶ國條約ノ規定

ニ適合スルコト

朝鮮總督府

四 滿洲ニ於ケル日本ノ利益ノ承認
 滿洲ニ於ケル日本ノ利權ハ無視スル能ハザルノ事實ニシテ之ヲ承認スルコトナク又滿洲ト日本トノ歴史的關係ヲ考慮スルコトナキ如何ナル解決モ満足ナルモノニ非ズ

五 日支間ニ於ケル新條約關係ノ設定
 若シ將來ノ軋轢ヲ避ケ相互ノ信頼及協力ヲ保タントセバ協定ニヨル解決ノ一部トシテ滿洲ニ於ケル兩國各自ノ利權及責任ニ關スル事項ヲ新條約中ニ再ビ規定スルコトカ望マシイ

六 將來紛争ノ解決ニ對スル有效ナル規定
 以上ノ事情ヨリ來ル當然ノ歸結トシテ將來發生スル小紛争ノ速カナル解決ヲ便ナラシムル爲規定ヲ設クル必要アリ

七 滿洲ノ自治

朝鮮總督府

滿洲政府ハ支那ノ主權及政治的保全ト關係セザル限り東三省ノ地方的狀況及特質ニ適合スル廣範圍ノ自治ヲ有スル如ク改造セララルコト必要トス又新政權ハ善政ニ必要ナル條件ヲ具ヘル如ク構成セラレ且運用セララルベキデアル

八 内外部的侵略ニ對スル國內ノ秩序及治安維持
 滿洲ノ内部的秩序ハ有力ナル地方的憲兵隊ニ依リ保持セララルベク又外部的侵略ニ對スル保障ハ憲兵隊以外ノ一切ノ軍隊ヲ撤退スルコトニヨリ利害關係ヲ有スル諸國間ノ不可侵條約締結ニヨリ與ヘラルルベキコト

九 日支間ニ於ケル經濟的和解ノ促進
 本目的ノ爲兩國間ニ新通商條約締結カ望マシクコノ條約ハ兩國間ノ通商關係ヲ善衡平ナル基礎ノ上ニ置キ之ヲ兩國間ノ改善サレタ

朝鮮總督府

ル政治的關係ト合致スルコトヲ目的トスルコト
一〇 支那改革ニ關スル國際協力

支那ノ現時ニ於ケル政治的不安ハ日本トノ友交關係ノ障害ニテ又
世界各國ニ對シテモ不安ノ念ヲ抱カシム（極東ニ於ケル平和維持
ハ國際的關心事ナルヲ以テナリ）且前述ノ條件ハ鞏固ナル中央政
府ナクシテハ實行出來ザルヲ以テ満足ナル解決ニ對スル修補ノ必
要條件トシテハ故孫逸仙博士ノ主張ヤル如ク支那ノ内部的改革ニ
ハ臨時的ニ國際協力カ必要デアル

第二節

本節ノ附規定ハ規約第十五條第四項ニヨル總會ノ勸告ナリ
紛争ノ解決ニ適用ヤラルベキ原則、條件、考慮ヲ決定シタル上總會ハ
次ノ如キ勸告ヲナス

朝鮮總督府

一 滿洲ノ主權ハ支那ニ屬スルガ故ニ

A、滿鐵附屬地外ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯及其ノ行動ハ紛争ノ解決
ノ法律の諸原則ト背馳セザルコト致ニ之等ノ諸原則ト適合スル事
態ヲ成ルベク速カニ確立スルコトカ必要デアル

故ニ總會ハ右軍隊ノ撤退ヲ勸告ス、事件ノ特殊ナル事情ニ鑑ミ以
下ニ勸告ヤラレタル交渉ノ第一ノ目的ハ右撤退ノ爲ニ準備ヲナシ
其ノ方法手段及期間ヲ決定スルコト

B、滿洲獨特ノ地方的狀況、日本ノ有スル特別ナル利權並ニ第五國
ノ利權ヲ考慮シ總會ハ支那ノ主權ノ下ニ於カレ且支那ノ行政的保
全ト兩立シ得ル一ノ機關ヲ相當ノ期間内ニ滿洲ニ設立ヤンコトヲ
勸告ス。本機關ハ廣汎ナル範圍ノ自治ヲ有シ地方的狀況ニ調和シ
現存ノ多邊的ノ條約、日本ノ特殊利權、第三國ノ利權並ニ一般的

ニ第一節Cニ再録サレタ諸原則及條件ヲ考慮スルコト又
 支那中央政府及其ノ地方官憲各自ノ權能並ニ兩國間ノ關係ノ決定
 ハ國際約定ノ效力ヲ有スル支那政府ノ宣言書ニ依リ之ヲ爲スコト
 (二) 調査委員會報告書ハ(一)A及(一)Bノ二勸告ニ於テ取扱ハレタル問題以
 外ニ極東ノ平和ノ中心ヲナス支那及日本間ノ友好關係ニ關スル總テ
 ノ問題ヲ前記第一節C記述ノ紛争ノ解決ニ關スル諸原則ノ中ニ就イ
 テキル故ニ總會ハ當事國ニ對シ右諸原則及條件ヲ基礎トシテ此等ノ
 問題ヲ解決ヤンコトヲ勸告ス
 (三) 以上ノ勸告實行ニ必要ナル交渉カ適當ナル機關ニヨリ行ハルル爲總
 會ハ左ニ明記サレタル方法ニヨリ兩當事國間ニ交渉ヲ開始ヤンコト
 ヲ勸告ス
 各當事國ハ相手國ニ總會ノ勸告ヲ受諾スルトノ條件ノ下ニ自國ノ關

723

0724

スル限り右勸告ヲ受諾スルヤ否ヤヲ事務總長ニ通報スルコトヲ要ス
 當事國間ノ交渉ハ總會カ設置スル委員會ノ援助ヲ得テ次ノ如ク行フ
 コト
 總會ハベルギー、英國、カナダ、チエコスロバキヤ、佛國、獨逸、
 アイルランド自由國、伊太利、オランダ、ポルトガル、スペイン、
 トルコノ政府ニ對シ兩當事國カ總會ノ勸告ヲ受諾シタル旨ノ通知ヲ
 事務總長ヨリ發スルヤ否ヤ直ニ各一名ノ委員ヲ任命ヤンコトヲ茲ニ
 要請ス
 事務總長ハ米國及ソヴエート社會主義共和國聯邦ノ兩政府ニ對シテ
 モ右ノ通知ヲナシ右各政府カ希望スル場合ハ各一名ノ委員ヲ任命セ
 ンコトヲ希望セリ。事務總長ハ兩當事國ノ受諾ノ通報接受後一ヶ月
 以内ニ交渉ノ開始ニ適當ナル一切ノ措置ヲトルコト

724

0725

復歸スルコトヲ定ムルモノニ非ズ勸告ハ極東平和ノ中心タル兩國ノ友好關係及現存國際義務ノ根本的原則ニ違背スルガ故ニ滿洲現政權ノ支持及承認ヲ拒否シテ

聯盟國ハ本報告書ヲ採擇スルニ當リ特ニ滿洲ニ於ケル現政權ニ關シテ本報告書中ノ勸告ノ實行ヲ阻害シ又ハ遲滞ヤシムベキ如何ナル行爲ヲモ差控ニルノ意志ヲ有ス聯盟國ハ法律上ニ於テモ又事實上ニ於テモ引續キ右政權ヲ承認セザルモノトス

聯盟國ハ滿洲ニ於ケル專断ニ關シ如何ナル單獨行動ヲモ差控ヘ且其ノ行動ニツキ聯盟國相互間並ニ利害關係ヲ有スル非聯盟國トノ間ニ協調ヲ繼續スル意志ヲ有ス、聯盟國ニシテ九ヶ國條約ノ署名國タルモノハ同條約ニ「聯盟國ノ一方カ本條約ノ規定ノ適用問題ヲ包含シ且右適用問題ニ付附議ヲ要ス」ト認ムル專断發生シタル中ハ何時ニテモ關係條約

726

0727

朝鮮總督府

交渉開始後聯盟國ニ對シテ各當學國カ總會ノ勸告ニ從ヒテ行動シ居ルヤ否ヤヲ判定スル權能ヲ與ヘンカ爲ニ

A、委員會ハ其ノ必要ト認メタル度毎ニ交渉ノ狀況殊ニ前記勸告(一) A及Bノ實行ニ關スル交渉ニ付報告スルコト、(一) Aニ關シテハ委員會ハ如何ナル場合ニ於テモ交渉ノ開始後三ヶ月以内ニ報告スルコト之等ノ報告ハ事務總長ニ於テ聯盟國及委員會ニ代表ヲ有スル非聯盟國ニ通報スルコト

B、委員會ハ本報告書第四節第二節ノ解釋ニ關スル一切ノ問題ヲ總會ニ附託スルコトヲ得、總會ハ規約第十五條第十項ニ從ヒ本報告書ノ採擇セラレタルト同一ノ條件ヲ以テ右解釋ヲ與フ

第三節

事件ノ特殊ナル事情ニ鑑ミ本勸告ハ一九三一年九月以前ノ風狀ニ單ニ

朝鮮總督府

725

0726

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

大臣 次官

電信課長

1175

10.20

2221110214-4

1175

テアラウ。

國間ニ完全且隔意ナキ交渉ヲ爲スベキコトト規定アリシヲ想スル
本報告書ノ勸告ニ適合スル事類ヲ極東ニ於テ確立スルコトヲ出來得ル
限リ便ナラシムル爲總會ハ事務總長ヲシテ本報告書ノ要ヲ「巴里」條
約又ハ九ヶ國條約ノ署名國タル非聯盟國ニ送附シ此等ノ諸國カ右報告
書ニ示サレタル見解ニ同意シ又必要ノ際ハ聯盟ト同一ノ行動及態度ヲ
トル様トノ總會ノ希望ヲ傳達セシム

以上

朝鮮總督府

昭和8 二〇六五〇 略

南京 本省

十八日後發 十月十八日後着

情

廣田外務大臣

日高總領事

第五三二號

十八日各漢字紙ハ日本ノ滿洲ニ於ケル支那人慘殺ノ暴行絶エサルモ
日本側ノ嚴重ナル取締ニ依リ外部ニ漏レサルカ爲斯ル事實ヲ知ラサ
ルコトアルカ八月三十日「マンチエスター、ガーディアン」所載ニ
依レハ七月二十九日哈爾濱ニ於テ日本軍ハ監禁中ノ支那人七、八十
人ヲ銃殺シ又日本探偵ハ右ニ關聯シ支那人幼童一人ヲ慘殺セル事實
アリトテ前記「ガーディアン」ノ記事ナルモノヲ譯載シ居レリ原文
郵送ス
支、北平、滿、哈爾濱へ轉電セリ

外務省

728

0729

727

0728